Cisco UCS Central リリース 1.5 インストレーション/アップグレードガイド

初版：2016 年 07 月 29 日

最終更新：2017 年 02 月 23 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（**www.cisco.com/jp/go/safety_warning/**）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system.All rights reserved.Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries.To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: http://www.cisco.com/go/trademarks.Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners.The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company.(1110R)

© 2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

目 次

はじめに vii

対象読者 vii

表記法 vii

Cisco UCS の関連ドキュメント ix

マニュアルに関するフィードバック ix

概要 1

Cisco UCS Central リリース 1.5 のインストール 1

Cisco UCS Central リリース 1.5 へのアップグレード 2

Cisco UCS Central 1.5 の概要 3

Cisco UCS Central 1.5 の機能の概要 3

Cisco UCS Central HTML 5 UI の概要 5

HTML5 UI の使用 5

リリース 1.5 での動作変更 9

マルチバージョン管理サポート 10

機能サポート マトリクス 12

インストールの前提条件 17

対応ブラウザ 17

サポートされるオペレーティング システム 18

必須のポート 18

システム要件 21

Cisco UCS Central をインストールするための重要な前提条件 23

Cisco UCS Central のインストール 25

インストールの概要 25

Cisco.com からの Cisco UCS Central ソフトウェアの入手 25

スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central インストール 26

VMware への Cisco UCS Central OVA ファイルのインストール 27

VMware への Cisco UCS Central ISO ファイルのインストール 28
Microsoft Hyper-V への Cisco UCS Central ISO ファイルのインストール 31
KVM ハイパーバイザへの Cisco UCS Central ISO ファイルのインストール 33
クラスタ モードでの Cisco UCS Central のインストール 35
共有ストレージの NFS サーバのセットアップ 36
NFS サーバまたはディレクトリの変更 37
RDM 共有ストレージから NFS 共有ストレージへの変更 37
ノード A への Cisco UCS Central のインストール 38
ノード B への Cisco UCS Central のインストール 40
Hyper-V の RDM 共有ストレージの追加とセットアップ 41
VMware での RDM 共有ストレージの追加およびセットアップ 42
データベース サーバ情報 43
スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central VM の復元 44
クラスタ モードでの Cisco UCS Central VM の復元 46
ログインおよび設定 49
ログインおよび設定の概要 49
Cisco UCS Central GUI へのログインとログアウト 49
Cisco UCS Central CLI へのログインとログアウト 50
admin パスワードのリセット 51
パスワードと共有秘密のガイドライン 52
共有秘密のリセット 52
Cisco UCS Manager での共有秘密のリセット 53
Cisco UCS Central のアップグレード 55
Cisco UCS Central のリリース 1.5 へのアップグレード 55
スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central のアップグレード 60
クラスタ モードでの Cisco UCS Central のアップグレード 60
スタンドアロン モードからクラスタ モードへ Cisco UCS Central を変更 61
Cisco UCS Manager の使用 63
Cisco UCS Cisco UCS Central 63
Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録 65
Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除 65
Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録 66

Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除 67
Cisco UCS Central の IP アドレスの変更 68
Cisco UCS Manager の IP アドレスの変更 70
Cisco UCS Central インスタンスの移行 70

はじめに

- 対象読者，vii ページ
- 表記法，vii ページ
- Cisco UCS の関連ドキュメント，ix ページ
- マニュアルに関するフィードバック，ix ページ

対象読者

このガイドは、次の 1 つ以上に責任を持つ、専門知識を備えたデータセンター管理者を主な対象にしています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ

表記法

テキストのタイプ	説明
GUI 要素	タブの見出し、領域名、フィールドラベルなどのGUI要素は、イタリック体（italic）で示しています。 ウィンドウ、ダイアログボックス、ウィザードのタイトルのようなメイン タイトルは、[Main titles] のように示しています。
マニュアルのタイトル	マニュアルのタイトルは、イタリック体（*italic*）で示しています。

テキストのタイプ	説明
TUI 要素	テキストベースのユーザ インターフェイスでは、システムによって表示されるテキストは、courier フォントで示しています。
システム出力	システムが表示するターミナル セッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
CLI コマンド	CLI コマンドのキーワードは、ボールド体（**this font**）で示しています。 CLI コマンド内の変数は、イタリック体（*italic*）で示しています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x | y | z}	どれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x | y | z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。stringの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[ ]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符（!）またはポンド記号（#）がある場合には、コメント行であることを示します。

（注）　「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ヒント　「問題解決に役立つ情報」です。ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。

ワンポイント アドバイス　「時間の節約に役立つ操作」です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告 安全上の重要事項

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策に留意してください。各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の安全についての警告を参照してください。

これらの注意事項を保管しておいてください。

Cisco UCS の関連ドキュメント

ドキュメント ロードマップ

すべての B シリーズ マニュアルの完全なリストについては、http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/b-series-doc で入手可能な『*Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap*』を参照してください。

すべての C シリーズ マニュアルの一覧については、http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc で入手できる『*Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap*』を参照してください。

管理用の UCS Manager と統合されたラック サーバでサポートされるファームウェア バージョンとサポートされる UCS Manager バージョンについては、『Release Bundle Contents for Cisco UCS Software』を参照してください。

その他のマニュアル リソース

ドキュメントの更新通知を受け取るには、Cisco UCS Docs on Twitter をフォローしてください。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、ucs-docfeedback@cisco.com までご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

第 1 章

概要

この章は、次の項で構成されています。

- Cisco UCS Central リリース 1.5 のインストール，1 ページ
- Cisco UCS Central リリース 1.5 へのアップグレード，2 ページ

Cisco UCS Central リリース 1.5 のインストール

Cisco UCS Central リリース 1.5 をインストールするには、次のオプションのどちらかを使用します。

- **スタンドアロン モード**：スタンドアロン インストールでは、リリース 1.3 以前と同じ方法で仮想マシンに Cisco UCS Central をインストールできます。
- **クラスタ モード**：クラスタ インストールは、管理環境をさらに安定させます。クラスタ インストールを使用して、フェールオーバーおよびハイ アベイラビリティを有効にするにプライマリおよびセカンダリ ノードに Cisco UCS Central をインストールします。

  ハイ アベイラビリティのためにクラスタ モードで Cisco UCS Central をインストールする場合、2 台の仮想マシンに Cisco UCS Central をインストールします。両方の仮想マシンに必要な要件は次のとおりです。

  - 同じサブネット上にある
  - 同じ仮想 IP アドレスを共有すること
  - 同じ NFS 共有ストレージを共有すること

    （注） Cisco UCS Central で使用する RDM ベースの共有ストレージは、Cisco UCS Central リリース 1.5 ではサポートされなくなりました。

  - Cisco UCS Central の同じリリース バージョンを実行しなければならない

これらの一方がプライマリ ノードで、他方がスタンバイ ノードです。プライマリ ノードがダウンした場合、スタンバイ ノードは最小限の中断で引き継ぎます。クォーラム情報は登録された Cisco UCS ドメイン に保存されます。

Cisco UCS Central リリース 1.5 へのアップグレード

Cisco UCS Central リリース 1.5 にアップグレードする際は、スタンドアロン モードまたはクラスタ モードにアップグレードできます。Cisco UCS Central 機能は、スタンドアロン モードとクラスタ モードで同じです。

重要 Cisco UCS Central をアップグレードする前に、登録済みドメインが Cisco UCS Manager のサポートされているリリース バージョンにアップグレードされていることを確認します。Cisco UCS Central リリース 1.5 には、Cisco UCS Manager リリース 2.1(2) 以降が必要です。Cisco UCS Central をアップグレードする前に Cisco UCS Manager をアップグレードしなければ、すべての登録済み Cisco UCS ドメインはアップグレード後からCisco UCS Centralアップデートの受信が停止されます。

Cisco UCS Central を 1.5 にアップグレードする前に、次のことを実行する必要があります。

- Cisco UCS Manager が 2.1(2) 以降であることを確認します。完全な機能サポートを保証するために、Cisco UCS Manager を最新バージョンにアップグレードすることを推奨します。
- クラスタ モードでアップグレードして RDM ベースの共有ストレージを使用するとしても、Cisco UCS Central は引き続き機能しますが、NFS 共有ストレージに移行することを推奨します。RDM 共有ストレージから NFS 共有ストレージへの変更, （37 ページ）を参照してください。
- リリース 1.0、1.1、または 1.2 から Cisco UCS Central をアップグレードする場合は、まず Cisco UCS Central 1.3 にアップグレードしてから、リリース 1.5 にアップグレードする必要があります。Cisco UCS Central リリース 1.0、1.1、または 1.2 をアップグレードするには、http://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-central-software/products-installation-guides-list.html に用意されている該当するインストレーション ガイドを参照してください。

サポートされるアップグレード オプション、要件、手順については、Cisco UCS Central のリリース 1.5 へのアップグレード, （55 ページ）を参照してください。

第 2 章

Cisco UCS Central 1.5 の概要

この章は、次の項で構成されています。

- Cisco UCS Central 1.5 の機能の概要，3 ページ
- リリース 1.5 での動作変更，9 ページ
- マルチバージョン管理サポート，10 ページ
- 機能サポート マトリクス，12 ページ

Cisco UCS Central 1.5 の機能の概要

Cisco UCS Central リリース 1.5 では、データセンターとリモート管理ロケーションの両方において高可用性を持ち、単一の管理ポイントから Cisco UCS ドメインを管理することができる、使いやすい統合ソリューションによってデータセンター環境を管理することができます。Cisco UCS Central 1.5 では、効率的にサーバ、ストレージ、およびネットワーク ポリシーを管理し、データセンター全体のネットワーク トラフィックのレポートを生成できます。

このリリースには、現在のデフォルト ユーザ インターフェイスである HTML 5 ベースのユーザ インターフェイスのフルサポートが含まれています。従来のフラッシュ ベースのユーザ インターフェイスは、http://*UCSCentral_IP*/flex.html で入手できます。

（注） フラッシュベースのユーザ インターフェイスは、1.5 より後のリリースの Cisco UCS Central ではサポートされません。

リリース 1.5(1a) は、HTML5 ベースのユーザ インターフェイスの次の新しい機能をサポートします。

機能	内容
160 の LDAP グループ マッピングのサポート	160 の LDAP グループ マッピングを Cisco UCS Central から管理できます。

機能	内容
vNIC/vHBA ペアリング	vNIC と vHBA の冗長性ペアを作成できます。
トラフィック モニタリング	スイッチド ポート アナライザ（SPAN）を使用してネットワーク トラフィックをモニタできます。
UUID 同期	UUID が M3 以上のサーバ上のオペレーティング システムと一致するように同期することができます。
PCI 用の管理ホストポートの配置	管理ホスト ポートを vCON に接続する vNIC または vHBA から選択できます。
オブジェクト タギング	タグを作成して、オブジェクトの編成、インフラストラクチャ ファームウェア アップデートの実行、およびハードウェア互換性レポートの実行ができます。
タグを使用したインフラストラクチャ ファームウェア アップデート	ドメイングループ外からインフラストラクチャ ファームウェアアップデートを実行できます。
ハードウェア互換性レポート	Cisco UCS コンポーネントおよび設定の相互運用性情報を確認できます。
Cisco UCS Central からのドメイン登録	Cisco UCS Manager の代わりに Cisco UCS Central からドメインを直接登録できます。
ローカル サービス プロファイルの表示	Cisco UCS Manager で作成されたサービス プロファイルを Cisco UCS Central で表示できるようになりました。
エラー メッセージの改良	エラーメッセージの意味を明確にするために付加的なテキストが追加されました。
UI のローカリゼーション	次の言語の UI サポートが追加されました。 • スペイン語 • ドイツ語 • イタリア語 • 日本語 • 韓国語 • 中国語（中国大陸）

機能	内容
テクニカル サポートの強化	サーバ、シャーシ、FEX およびその他のオプションのテクニカル サポート ファイルを生成できます。

Cisco UCS Central HTML 5 UI の概要

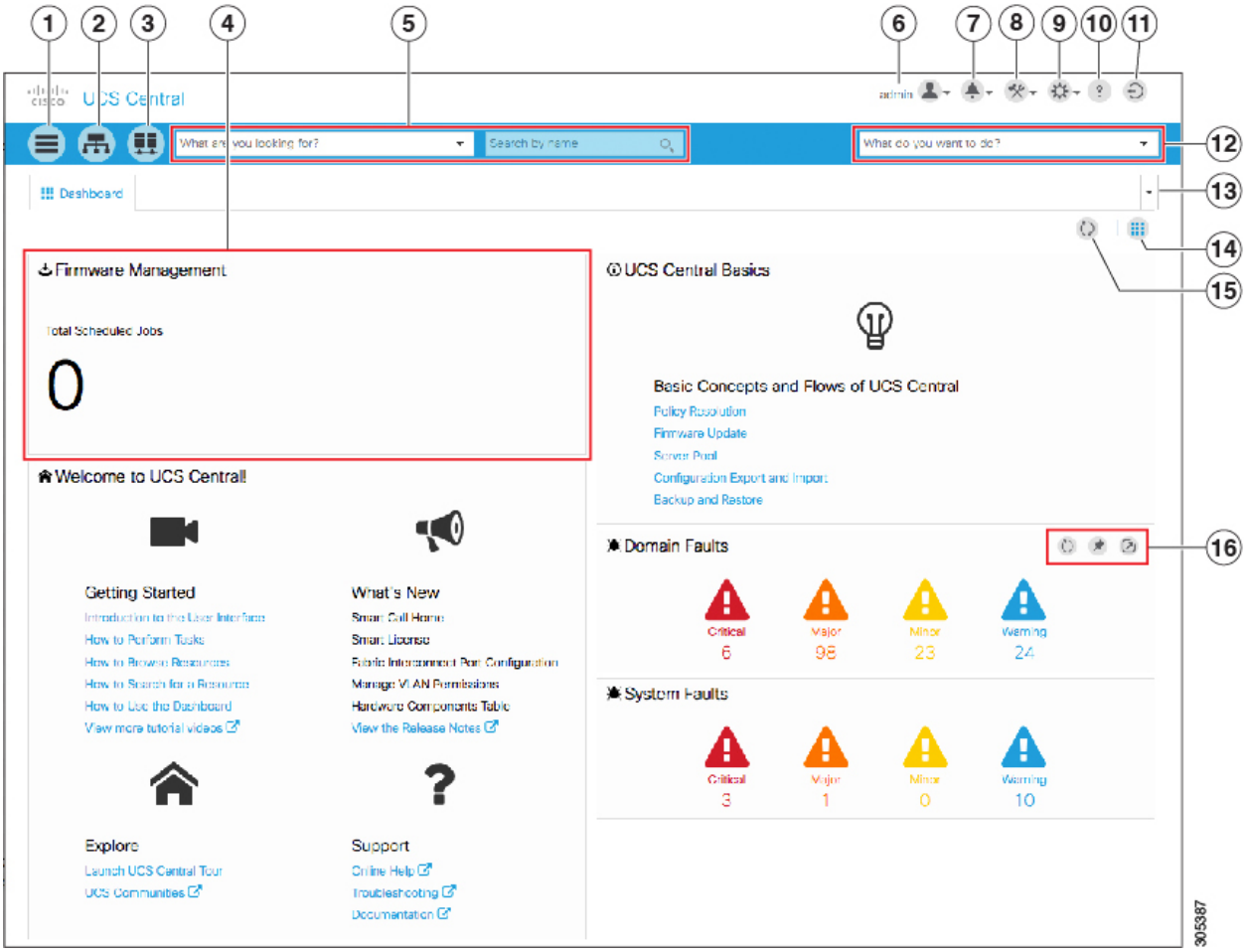
Cisco UCS Central HTML5 ベースのユーザ インターフェイスは、管理のための柔軟性とタスク ベースの操作性を提供します。

ダッシュボードには、システム内のコンポーネントの概要が表示されます。頻繁に使用するコンポーネントを固定表示して、運用要件に合わせてダッシュボードをカスタマイズすることができます。ダッシュボード上のオブジェクトをクリックすると、システム内の関連ページに移動できます。

HTML5 UI の使用

ダッシュボード

ダッシュボード ウィジェットを固定表示し、組織の要件に合わせてダッシュボードをカスタマイズできます。管理タスクを実行するときに使用する基本的なダッシュボード構成およびナビゲーション アイコンを説明します。



項目	説明
1	表参照アイコン。クリックすると、ドメイン、ファブリックインターコネクト、サーバ、シャーシ、FEX、ハードウェアコンポーネント、vLAN、vSAN、サービスプロファイル、テンプレート、プール、ポリシー、スケジュール、IDユニバース、タグなどのシステム内の物理的および論理的なインベントリ関連エンティティが表示されます。これらのエンティティのいずれかをクリックすると、関連ページが開いて、詳細が表示されます。
2	組織ナビゲーションアイコン。クリックすると、システム内の組織ルートとその他のサブ組織が表示されます。ルートまたはサブ組織をクリックすると、選択した組織の詳細ページを表示できます。

項目	説明
3	ドメイン グループ ナビゲーション アイコン。クリックすると、システム内のドメイン グループ ルートとその他のドメイン グループが表示されます。ドメイン グループをクリックすると、詳細ページを表示できます。
4	ダッシュボード ウィジェット。このダッシュボード上に任意のウィジェットを固定表示できます。ウィジェット上にマウスを移動すると、ウィジェットのメニューバーで他のオプションが有効になります。 ウィジェットのメニュー バーの [Favorites] ウィジェットを使用すると、ポリシーを作成または編集するときに頻繁に使用するコンポーネント、タブ、ダイアログを保存できます。[Favorites] ウィジェットをダッシュボードに固定することで、複数の画面を移動せずによく使用するタスクやビューに直接アクセスできます。[Favorites] アイコンは、すべてポリシーの [Create] ダイアログボックスと [View] 画面で使用できますが、[Edit] ダイアログボックスでは使用できません。
5	検索バー（What are you looking for?）。次を実行できます。 • エンティティ タイプを選択して、システム内のエンティティを名前で検索します。空の検索文字列はすべてのエンティティを返します。 • 必要に応じて場所とステータスで検索結果を絞り込みます。 • 検索結果に表示されるエンティティをクリックして、新しいページに詳細を表示します。

項目	説明
6	[Profile Configuration] アイコン。クリックすると、[User Preferences] と [Change Password] が起動します。このページでは、[Change Password]、[Restore Dashboard Defaults]、[Restore Tabs] および [Show First Launch Experience] を実行できます。 [Restore Tabs] は開いていたタブを保存し、UCS Central に再度ログインしたときに、それらのタブに直接アクセスできるようにします。[On Startup] メニューから次のいずれかのオプションを選択できます。 • [Prompt to restore tabs] • [Automatically restore tabs] • [Do not restore tabs] Cisco UCS Central にログインすると、[Prompt to restore tabs] オプションがデフォルトで有効になります。[Restore Tabs] ダイアログボックスでは、復元するタブを選択できます。ここで選択したタブは復元されます。[Auto Restore] オプションを選択すると、Cisco UCS Central に再度ログインしたときに、選択したタブ自動的に復元されます。
7	[System Alerts] アイコン。クリックすると、[Pending Activities]、[System Faults]、[Domain Faults]、[Events]、[Audit Logs]、[Core Dumps]、[Internal Services] が表示され、そこに移動できます。
8	[System Tools] アイコン。クリックすると、[Firmware Management]、[Backup & Restore]、[Export & Import]、[Tech Support]、[Image Library]、[Domain Management]、[Hardware Compatibility Reports]、[Unified KVM Launcher]、[Active Sessions]、および [Start Logging Session] が表示され、そこに移動できます。
9	[System Configuration] アイコン。クリックすると、[System Profiles]、[System Policies]、[Users]、[Authentication]、[SNMP]、[Smart Call Home]、および [Licenses] が表示され、そこに移動できます。
10	[Help] アイコン。クリックすると、オンライン ヘルプにアクセスします。
11	ログアウト アイコン。クリックすると、アクティブな Cisco UCS Central セッションからログアウトします。

項目	説明
12	アクション バー（What do you want to do?）。ここから、新規作成、スケジューリング、インストール、エクスポート、およびインポートができます。 • ドロップダウン矢印をクリックし、使用可能なアクションを表示します。 • タスクを選択するか、またはアクション バーにタスクを入力します。 • ダイアログボックスを起動して、タスクを実行します。
13	タブ ナビゲータ。開いているタブをナビゲートしたり、一度にすべてのタブを閉じたりできます。
14	ダッシュボード ウィジェット ライブラリ アイコン。クリックすると、使用可能なウィジェットが表示されます。ダッシュボードに固定するウィジェットをクリックします。
15	更新アイコン。クリックすると、固定表示されたすべてのウィジェットまたはテーブル ページ内の情報が更新されます。
16	[Widget] メニュー。ダッシュボード上のウィジェット内から、次の操作を実行できます。 • このウィジェットに表示された情報を更新する。 • ダッシュボードからこのウィジェットの固定表示を解除する。 • この操作に関する詳細ページを開く。

リリース 1.5 での動作変更

廃止のお知らせ

- Cisco UCS M シリーズ モジュラ サーバは廃止されたため、Cisco UCS Central リリース 1.5 ではサポートされません。
- 統計情報管理機能は廃止予定であり、1.5 より後のリリースの Cisco UCS Central ではサポートされません。
- 2017 年 3 月 3 日以降、Cisco UCS Central バージョン 1.4 以前では更新されたファームウェア イメージ リストを Cisco.com から取得できなくなります。Cisco UCS Central バージョン 1.4

以前を実行している場合は、手動で Cisco.com からファームウェア イメージを直接ダウンロードして、Cisco UCS Central にインポートできます。引き続き 、使用可能なイメージデータを Cisco UCS Central が Cisco.com から取得して、ファームウェア イメージを [Image Library] に配置するため、Cisco UCS Central リリース 1.5 以降にアップグレードすることをお勧めします。

機能サポート

Cisco UCS Central HA 構成で使用する RDM ベースの共有ストレージは、Cisco UCS Central リリース 1.5 ではサポートされなくなりました。

従来のフラッシュベースのユーザインターフェイスで使用可能な次の機能は、現時点では、HTML5 ユーザ インターフェイスではサポートされていません。

- ポリシー インポート
- しきい値ポリシー
- 統計情報

（注） Cisco UCS Central リリース 1.4(1a) 以降のリリースで導入される機能はすべて、HTML5 ユーザインターフェイスでのみ使用できます。

設計に基づく動作の変更

- サービス プロファイルを作成する前に、グローバル サービス プロファイル テンプレートを作成する必要があります。
- vNIC および vHBA 配置はインターフェイス配置と呼ばれるようになりました。
- 登録ポリシーはドメイン グループ資格ポリシーと呼ばれるようになりました。
- ID 範囲資格ポリシーは ID 範囲アクセス コントロール ポリシーと呼ばれるようになりました。
- ID 範囲アクセス コントロール ポリシー用として認定された IP アドレスは存在しません。
- Cisco UCS Central では、設定のエクスポート（all-config）オプションとバックアップ（full-state）オプションのみが使用されます。論理設定やシステム設定などの他のバックアップ タイプはサポートされません。

マルチバージョン管理サポート

Cisco UCS Central では、Cisco UCS Manager の異なるバージョンを使用する複数の Cisco UCS ドメイン を同時に管理することができます。Cisco UCS Central では、ドメイン登録時に各 Cisco UCS ドメインの機能が識別されます。この機能により、複数バージョンの Cisco UCS Manager を Cisco

UCS Central とシームレスに統合し、管理とグローバル サービス プロファイルの展開を実現できます。

Cisco UCS Central を新しいリリースにアップグレードする場合は、使用している機能によっては、登録された UCS ドメインが Cisco UCS Central と互換性があることを確認するのに Cisco UCS Manager のリリース バージョンすべてをアップグレードする必要がない場合があります。

Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に登録するときは、Cisco UCS Central はインベントリ情報とともにドメインから次の情報を取得します。

- Cisco UCS Manager のリリース バージョン
- ドメインの使用可能なサポート対象機能のリスト

使用可能な機能は、管理機能マトリクスとして Cisco UCS Central に送信されます。この情報に基づいて、Cisco UCS Central は登録済みの各ドメインでサポートされる機能のリストを作成します。Cisco UCS ドメインの機能に基づいて、Cisco UCS Central は特定のグローバル管理オプションがドメインで使用可能かどうかを決定します。Cisco UCS Manager インスタンスの旧バージョンを含むドメインのグループ上でのグローバルサービスプロファイルの配置などの管理タスクを実行するときは、機能マトリクスに基づいて Cisco UCS Central が次の項目を実行します。

- サポートされるドメインのみへのタスクの提供。
- 機能がサポートされていないドメインに対するバージョン非互換性メッセージの表示。

Cisco UCS Manager でサポートされる機能

Cisco UCS Central CLI を使用して Cisco UCS ドメインでサポートされている機能を確認できます。登録された Cisco UCS ドメインの Cisco UCS Manager のバージョンに基づいて、Cisco UCS Central CLI はサポートされる機能のリストを次の 4 つのカテゴリで作成します。

- **サーバ機能マスク**：グローバル サービス プロファイル、ポリシー マッピングおよびインバンド管理、詳細ブート順を含む
- **ネットワーク機能マスク**：なし
- **ストレージ機能マスク**：FC ゾーン分割および ISCSI IPv6
- **環境機能マスク**：電源グループ、リモート操作、UCS 登録、再接続への予測影響

管理の除外

マルチバージョンのサポートでは、グローバル管理から一部の機能を除外する機能も提供されます。登録された UCS ドメインにログインし、Cisco UCS Manager CLI から特定の機能をオフにできます。次のグローバル管理機能を無効にできます。

- **グローバル サービス プロファイルの展開**：サーバ プールでグローバル サービス プロファイルを展開し、プール内のサーバの 1 つでグローバル サービス プロファイルの展開を無効にすると、Cisco UCS Central はグローバル サービス プロファイルの展開からサーバを除外します。

- **インバンド管理**：インバンド管理機能を有するサービスプロファイルは、インバンド管理機能を除外したサーバには展開されません。
- **ポリシー マッピング**：この Cisco UCS ドメインから Cisco UCS Central へのポリシーまたはポリシー コンポーネントのインポートを無効にします。
- **リモート管理**：Cisco UCS Central からの Cisco UCS ドメイン内の物理デバイスの制御を制限します。

いつでも Cisco UCS Manager CLI を使用してこれらの機能を有効にして、登録された Cisco UCS ドメインのグローバル管理機能をいつでも復元できます。

機能サポート マトリクス

次の表に、Cisco UCS Central の機能と、それらの機能がサポートされる Cisco UCS Manager のリリース バージョンのリストを示します。

（注） 一部の機能は、今後の Cisco UCS Manager のリリースとの互換性を確保するために Cisco UCS Central で構築されています。

リリース 1.5 の機能サポート

Cisco UCS Central の機能	サポートされる Cisco UCS Central のバージョン	サポートされる Cisco UCS Manager のバージョン			
		2.1	**2.2**	**3.0**	**3.1**
Cisco UCS S3260 ストレージサーバサポート	1.5(1a)	No	No	No	3.1(2) 以降
vNIC/vHBA ペアリング	1.5(1a)	No	2.2(7) 以降	No	3.1(2) 以降
トラフィック モニタリング	1.5(1a)	No	2.2(7) 以降	No	3.1(1) 以降
UUID 同期	1.5(1a)	No	2.2(7) 以降	No	3.1(2) 以降
PCI 用の管理ホストポートの配置	1.5(1a)	No	No	No	3.1(1e) 以降

Cisco UCS Central の機能	サポートされる Cisco UCS Central のバージョン	サポートされる Cisco UCS Manager のバージョン			
		2.1	2.2	3.0	3.1
160 の LDAP グループマッピングのサポート	1.5(1a)	No	2.2(8) 以降	No	3.1(2) 以降

リリース 1.4 の機能サポート

Cisco UCS Central の機能	サポートされる Cisco UCS Central のバージョン	サポートされる Cisco UCS Manager のバージョン				
		2.1	2.2	2.5	3.0	3.1
ポート設定	1.4(1a)	No	2.2(7) 以降	No	No	3.1(1) 以降
高度なローカルストレージ設定	1.4(1a)	No	2.2(7) 以降	2.5(1) 以降	No	3.1(1) 以降
ブート ポリシー内の複数の LUN	1.4(1a)	No	2.2(7) 以降	2.5(1) 以降	No	3.1(1) 以降
一貫したデバイスの命名	1.4(1a)	No	2.2(4) 以降	2.5(1) 以降	3.0(1) 以降	3.1(1) 以降
ダイレクト アタッチド ストレージ/FC ゾーン分割	1.4(1a)	No	2.2(7) 以降	No	No	3.1(1) 以降
高度なホストファームウェアパック	1.4(1a)	No	2.2(6) 以降	No	No	3.1(1) 以降
usNIC 接続ポリシー	1.4(1a)	No	2.2(6) 以降	No	No	3.1(1) 以降
VMQ 接続ポリシー	1.4(1a)	No	2.2(6) 以降	No	No	3.1(1) 以降
装置ポリシー	1.4(1a)	No	2.2(7) 以降	No	No	3.1(1) 以降

Cisco UCS Central の機能	サポートされる Cisco UCS Central のバージョン	サポートされる Cisco UCS Manager のバージョン				
		2.1	2.2	2.5	3.0	3.1
次回のリブート時のメンテナンス ポリシー	1.4(1a)	No	No	No	No	3.1(1) 以降

リリース 1.3 以前の機能サポート

Cisco UCS Central の機能	サポートされる Cisco UCS Central のバージョン	サポートされる Cisco UCS Manager のバージョン				
		2.1	2.2	2.5	3.0	3.1
マルチバージョン管理のサポートとサポートされる Cisco UCS Manager 機能の表示	1.1(2a)	No	2.2(1b) 以降	2.5(1a) 以降	3.0(1c) 以降	3.1(1a) 以降
ポリシー/ポリシー コンポーネントおよびリソースのインポート		No	2.2(1b) 以降	2.5(1a) 以降	3.0(1c) 以降	3.1(1a) 以降
バックアップ イメージ ファイル用のリモート ロケーションの指定		No	2.2(2b) 以降	2.5(1a) 以降	3.0(1c) 以降	3.1(1a) 以降
サードパーティ証明書		No	2.2(2c) 以降	2.5(1a) 以降	3.0(1c) 以降	3.1(1a) 以降
IPv6 インバンド管理サポート		No	2.2(2c) 以降	2.5(1a) 以降	3.0(1c) 以降	3.1(1a) 以降

Cisco UCS Central の機能	サポートされる Cisco UCS Central のバージョン	サポートされる Cisco UCS Manager のバージョン				
		2.1	**2.2**	**2.5**	**3.0**	**3.1**
再接続への予測影響	1.2(1a)	No	2.2(3a) 以降	2.5(1a) 以降	3.0(1c) 以降	3.1(1a) 以降
高精度のブート順制御		No	2.2(1b) 以降	2.5(1a) 以降	3.0(1c) 以降	3.1(1a) 以降
スクリプト可能な vMedia	1.2(1e) 以降	No	2.2(2c) 以降	2.5(1a) 以降	3.0(2c) 以降	3.1(1a) 以降

（注）

- ポリシー/ポリシー コンポーネントまたはリソースの検索は、Cisco UCS Manager のリリース 2.1(2x) と 2.1(3x) でサポートされます。ポリシーをインポートするには、Cisco UCS Manager のリリース 2.2(1b) 以降が必要です。
- Precision Boot Order Control については、ブレード サーバが CIMC バージョン 2.2(1b) 以降でなければなりません。

第 3 章

インストールの前提条件

この章は、次の項で構成されています。

- 対応ブラウザ，17 ページ
- サポートされるオペレーティング システム，18 ページ
- 必須のポート，18 ページ
- システム要件，21 ページ
- Cisco UCS Central をインストールするための重要な前提条件，23 ページ

対応ブラウザ

Cisco UCS Central GUI にアクセスするには、ご使用のコンピュータが次の最小システム要件を満たしている必要があります。

- Windows
  - Internet Explorer 11 以上
  - Firefox 45.0.2 以降
  - Chrome 49 以降
- Linux RHEL
  - Firefox 45.0.2 以降
  - Chrome 49 以降
- MacOS
  - Firefox 45.0.2 以降
  - Chrome 49 以降

- Safari 9.0.3 以降

サポートされるオペレーティング システム

リリース済みの ISO は以下でサポートされます。

- VMware ESXi 5.0 U3、ESXi 5.1、ESXi 5.5、および ESXi 6.0 U1b
- Microsoft Hyper-V Server 2012 R2、Microsoft Hyper-V Server 2016
- Red Hat Enterprise Linux 6.5 および 7.2 上の KVM ハイパーバイザ

リリースされている OVA は VMware ESXi 5.0 U3、ESXi 5.1、ESXi 5.5、および ESXi 6.0 U1b でサポートされます。

必須のポート

Cisco UCS Manager は FI（FI-A または FI-B の IP アドレス）の個々の IP アドレスを送信元接続先として使用して Cisco UCS Central と通信します。Cisco UCS Central から Cisco UCS Manager へは VIP を宛先アドレスとして使用して通信します。

Cisco UCS Central と Cisco UCS ドメイン間の通信

通常、既存のすべての Cisco UCS 管理ドメインの IP アドレスは、共通の管理ネットワーク上にあります。それ以外の場合、Cisco UCS Central からすべての下位管理ドメインへのルーティング アクセスが確立されれば、Cisco UCS Central は機能します。このため、ファイアウォール、プロキシ、および他のセキュリティ システムで、Cisco UCS Central と登録されたすべての Cisco UCS ドメインの間の連続的な通信を可能にするため、次のポート上で読み取り/書き込みアクセスを許可するように設定されている必要があります。

次の表にリストされているポートは、Cisco UCS Central 上で開く必要があります。これらのポートには、UCS ドメインからアクセスします。

（注） 使用するバージョンと UI によっては、必要のないポートもあります。たとえば、Cisco UCS Manager リリース 2.2(2) 以降では NFS ポートは必要ありません。

表 1：***Cisco UCS Manager*** **リリース バージョン** ***2.1(x)*** **と** ***2.2(1)*** **以前にはポートが必要です。**

ポート番号	Daemon	プロトコル	使用法
32803	LOCKD_TCPPORT	TCP および UDP	Linux NFS ロック
892	MOUNTD_PORT	TCP および UDP	Linux NFS マウント

ポート番号	Daemon	プロトコル	使用法
875	RQUOTAD_PORT	TCP および UDP	Linux リモート クォータ サーバ ポート（NFS）
32805	STATD_PORT	TCP および UDP	NFS ファイル ロック サービスで使用される Linux ロック リカバリ
2049	NFS_PORT （注）	TCP および UDP	Linux NFS リスニング ポート
111	SUNRPC	TCP および UDP	Linux RCPBIND リスニング ポート（NFS）
443	HTTPS_PORT	TCP および UDP	Cisco UCS Central および Cisco UCS ドメインと UCS Central GUI とのファイアウォール経由の通信をイネーブルにします。
80	HTTP	TCP	Flash UI を使用した Cisco UCS Central と UCS ドメインとの通信。このポートは、Cisco UCS Central CLI を使用して設定できます。 （注） Cisco UCS Manager HTML5 UI を使用する場合、このポートは必要ありません。
843	PRIVATE_PORT	TCP および UDP	Flash UI と UCS Central VM との UCS Central 通信 （注） Cisco UCS Manager HTML5 UI を使用する場合、このポートは必要ありません。

表 *2*：***UCS Mini***、***Cisco UCS Manager 3.0(1)***、または ***3.0(2)*** など、***Cisco UCS Manager*** リリース バージョン ***2.2(2)*** 以降に必要なポート。

ポート番号	Daemon	プロトコル	使用法
443	HTTPS_PORT	TCP および UDP	Cisco UCS Central および Cisco UCS ドメインと UCS Central GUI との通信をイネーブルにします。

ポート番号	Daemon	プロトコル	使用法
80	HTTP	TCP	Flash UI を使用した Cisco UCS Central と UCS ドメインとの通信。このポートは、Cisco UCS Central CLI を使用して設定できます。 （注） Cisco UCS Manager HTML5 UI を使用する場合、このポートは必要ありません。
843	PRIVATE_PORT	TCP および UDP	Flash UI と UCS Central VM との UCS Central 通信 （注） Cisco UCS Manager HTML5 UI を使用する場合、このポートは必要ありません。

Cisco UCS Central とクライアント ブラウザ間の通信

次のポートが Cisco UCS Manager 上で開いている必要があります。Cisco UCS Central とクライアント ブラウザ間での通信をイネーブルにするためには、Cisco UCS Central から次のポートにアクセスします。

ポート番号	Daemon	プロトコル	使用法
443	HTTPS_PORT	TCP	Cisco UCS Central と UCS ドメインとの通信をイネーブルにします。このポートは常に必要です。
80	HTTP	TCP	Flash UI を使用した Cisco UCS Central と UCS ドメインとの通信。このポートは、Cisco UCS Central CLI を使用して設定できます。 （注） Cisco UCS Manager HTML5 UI を使用する場合、このポートは必要ありません。

AD サーバ通信

LDAP ポート 389 は、AD サーバ上で開いている必要があります。このポートは、MS AD LDAP 連携および通信のために Cisco UCS Central からアクセスします。

（注） Cisco UCS Central は、LDAP over SSL/TLS をサポートするために STARTTLS を使用します。ポート 389 が必要な唯一のポートです。

システム要件

スタンドアロン インストール

スタンドアロン モードで Cisco UCS Central をインストールする場合は、次のシステム要件を満たしていることを確認します。

サーバ タイプ

Cisco UCS Manager に管理されないまたは Cisco UCS ドメインに統合されないスタンドアロン ラック サーバで実行される VMware または Hyper-V hypervisor 上に、Cisco UCS Central を配置することを推奨します。サーバは、可能であれば高速のストレージ アレイからプロビジョニングされる、高速なデータ ストアである必要があります。

サーバ要件

以下の表に、次のプラットフォームでの Cisco UCS Central のインストールの最小要件を示します。

- ESX
- Hyper-V
- KVM Hypervisor

項目	**EXS、 Hyper-V、および KVM ハイパーバイザの最小要件**
ディスク 1	40 GB
ディスク 2	40 GB
RAM	12 GB 大規模用 32 GB
vCPU コア	4 コア
ディスク読み取り速度	75 Mbps 以上 125 MBps 以上が推奨される速度です。

（注）

- さらに多くのサーバ（たとえば、500 ドメイン/10000 サーバ）を管理する場合は、RAM を 32 GB 以上に増やしてください。
- Cisco UCS Central のパフォーマンスは、vCPU、RAM またはディスク速度の最小要件を満たしていないサーバで導入する場合は保証されません。
- VM の設定を変更する前に、電源をオフにしてください。
- クラスタ セットアップに NFS を使用する場合、適切なシステム パフォーマンスを確保するため、ネットワーク遅延が 0.5 ms 未満となるようにします。

サーバのディスク読み込み速度が Cisco UCS Central の展開中に最低限必要な速度を下回る場合、インストーラが警告メッセージを表示しますが、展開を完了できます。ただし、ディスク読み込み速度が動作時に最低限必要な速度を下回る場合、ディスク読み込み速度の遅さに応じて、次の表に示す障害が Cisco UCS Central で発生します。

サーバのディスク読み込み速度	障害レベル
75 Mbps 以下	致命的な障害
75 ～ 100 Mbps	重大な障害
100 ～ 125 Mbps	マイナーな障害
125 Mbps 以上	該当なし

サポートされるデータベース サーバ

次の統計情報収集用データベース サーバがサポートされています。

- Oracle Database 11g Enterprise Edition Release 11.2.0.1.0 64 ビット製品以降
- PostgreSQL Server 9.1.8 64 ビット以降
- Microsoft SQL Server 2012 (SP1) - 11.0.3000.0 (X64) 以降
- Microsoft SQL Server 2008 R2 10.50.1600.1 (X64) SP1 以降

統計情報データが外部データベース サーバに保存されている場合、データベース サーバのディスク容量要件として次の参照データを考慮してください。

- 20 個の Cisco UCS ドメインを登録すると、1 年間統計データを保存するために必要な最小限のストレージ容量は 400 GB です。
- 100 個の Cisco UCS ドメインを登録すると、1 年間統計データを保存するために必要な最小限のストレージ容量は 2 TB です。

クライアント システム

クライアント システムに必要な最小メモリは、4 GB です。ただし、40 以上登録された Cisco UCS ドメインがある場合、クライアント システム上のメモリが少なくとも 8 GB あることを推奨します。

クラスタのインストール

ハイ アベイラビリティを有効にし、クラスタ モードで Cisco UCS Central をインストールする場合、スタンドアロン インストール用に指定されたすべての要件および次の共有ストレージを満たす必要があります。

- **ESX の最小要件**：40 GB
- **Hyper-V の最小要件**：40 GB

Windows の NFS 要件

Windows NFS を使用してクラスタ モードで Cisco UCS Central をインストールする前に、Windows の変換ファイルを作成していることを確認します。

（注） 詳細については、「How to Enable File Name Character Translation」を参照してください。

リモート ロケーションでの Cisco UCS ドメインの管理

リモートのブランチ オフィスなどのリモート ロケーションでの Cisco UCS ドメイン の管理には、以下が Cisco UCS ドメインと Cisco UCS Central 間のネットワーク接続のための最小要件になります。

- 帯域幅 - 1.5 Mbps 以上
- 遅延 - 500 ミリ秒（ラウンド トリップ）以下

Cisco UCS Central をインストールするための重要な前提条件

Cisco UCS Central をインストールする前に、次の情報が必要です。

- Cisco UCS Central のスタティック IPv4 アドレス
- IPv4 ネットマスク
- デフォルト ゲートウェイ
- Cisco UCS Central 管理者アカウントに割り当てるパスワード。新しいパスワードを作成します。

- 仮想マシン（VM）のホスト名
- DNS サーバを使用する場合の DNS サーバの IPv4 アドレス
- DNS ドメインを使用する場合の Cisco UCS Central を追加する DNS ドメイン名
- 共有秘密。これは、Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメイン を登録するときに必要なパスワードです。
- NFS 共有ストレージ。スタンドアロン インストールでは NFS 共有ストレージはサポートされませんが、クラスタ インストールの場合には必須です。
- 統計情報管理機能は廃止予定であり、1.5 より後のリリースの Cisco UCS Central ではサポートされません。

第 4 章

Cisco UCS Central のインストール

この章は、次の項で構成されています。

- インストールの概要，25 ページ
- Cisco.com からの Cisco UCS Central ソフトウェアの入手，25 ページ
- スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central インストール，26 ページ
- クラスタ モードでの Cisco UCS Central のインストール，35 ページ
- データベース サーバ情報，43 ページ
- スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central VM の復元，44 ページ
- クラスタ モードでの Cisco UCS Central VM の復元，46 ページ

インストールの概要

Cisco UCS Central では、スタンドアロンまたはクラスタ構成でインストールするオプションがあります。インストールする前に、Cisco.com からソフトウェアを取得してローカル ドライブに保存する必要があります。

Cisco UCS Central は、次のいずれかを使用してインストールできます。

- OVA ファイル
- ISO イメージ

Cisco.com からの Cisco UCS Central ソフトウェアの入手

はじめる前に

正常に Cisco UCS Central ソフトウェアをダウンロードする準備ができたら、Cisco.com のユーザ名とパスワードが正しいことを確認します。

手順

ステップ 1 Web ブラウザで、 Cisco.com を参照します。

ステップ 2 [Support] で [All Downloads] をクリックします。

ステップ 3 中央のペインで、[Unified Computing and Servers] をクリックします。

ステップ 4 入力を求められたら、Cisco.com のユーザ名およびパスワードを入力して、ログインします。

ステップ 5 右側のペインで、ダウンロードする形式の Cisco UCS Central ソフトウェアのリンクをクリックします。
次の形式で Cisco UCS Central ソフトウェアをダウンロードできます。

- OVA ファイル（`ucs-central.1.5.1a.ova` のような名前のファイル）
- ISO ファイル（`ucs-central.1.5.1a.iso` のような名前のファイル）

また、管理者パスワードをリセットする ISO イメージもここでダウンロードできます。

ステップ 6 ソフトウェアのダウンロードページで、リリース ノートの最新バージョンをダウンロードするリンクをクリックします。

ステップ 7 ダウンロードする Cisco UCS Central ソフトウェア リリースのリンクをクリックします。

ステップ 8 次のいずれかのボタンをクリックして、表示される指示に従います。

- [Download Now]：Cisco UCS Central ソフトウェアをすぐにダウンロードできます。
- [Add to Cart]：後でダウンロードする Cisco UCS Central ソフトウェアをカートに追加します。

ステップ 9 プロンプトに従って、ソフトウェアのダウンロードを実行します。

ステップ 10 Cisco UCS Central VM を配置する前にリリース ノートをお読みください。

スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central インストール

Cisco UCS Central は、スタンドアロン モードで OVA ファイルまたは ISO イメージのいずれかでインストールできます。

VMware への Cisco UCS Central OVA ファイルのインストール

（注） Cisco UCS Central VM は、初回起動時に 1 回限りの初期設定プロセスを実行します。このプロセスが完了するまで待ってからログインしてください。

手順

ステップ 1 ハイパーバイザからアクセス可能なフォルダに Cisco UCS Central OVA ファイルを保存します。

ステップ 2 VMware Virtual Center コンソールから、[File] > [Deploy OVF Template] を選択します。

ステップ 3 Cisco UCS Central VM をホストする ESX を選択して OVA ファイルを展開します。
手順に従って VM を起動し、プロセスが 100% 完了するまで待ってから次の手順に進みます。

ステップ 4 OVA ファイルのインポート時に VM の電源をオンにしていない場合は、Cisco UCS Central VM の電源をオンにします。

ステップ 5 Cisco UCS Central VM のコンソール ウィンドウを開きます。

ステップ 6 Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。

a) 「`Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore]`」プロンプトで、setup と入力し、Enter キーを押します。

b) 「`Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address :`」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
この Cisco UCS Central VM 用に予約された固定 IP アドレスを入力する必要があります。Cisco UCS Central は、Dynamic Host Configuration Protocol（DHCP）をサポートしていません。

c) 「`Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask :`」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てるネットマスクを入力し、Enter キーを押します。

d) 「`Enter the Default Gateway :`」プロンプトで、Cisco UCS Central で使用されるデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。

e) 「`Is this VM part of a cluster(select 'no' for standalone) (yes/no)`」プロンプトで、no を選択し、Enter キーを押します。
yes を選択すると、クラスタ モードで Cisco UCS Central をセットアップします。クラスタ モードでの Cisco UCS Central のセット アップの詳細については、クラスタ モードでの Cisco UCS Central のインストール，（35 ページ） を参照してください。

f) 「`Enter the UCS Central VM host name :`」プロンプトで、Cisco UCS Central VM に使用するホスト名を入力し、Enter キーを押します。

g) （任意） 「`Enter the DNS Server IPv4 Address :`」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用する DNS サーバの IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
Cisco UCS Central で DNS サーバを使用しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。

h) （任意） 「`Enter the Default Domain Name :`」プロンプトで、Cisco UCS Central を追加するドメインを入力し、Enter キーを押します。
ドメインに Cisco UCS Central を追加しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。Cisco UCS Central は、localdomain というデフォルト ドメインを使用します。

i) 「`Enforce Strong Password(Yes/No)`」プロンプトで、強力なパスワード アラートを設定する場合は [yes] を選択して Enter キーを押します。

j) 「`Enter the admin Password :`」プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードを入力し、Enter キーを押します。

k) 「`Confirm admin Password :`」プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードをもう一度入力し、Enter キーを押します。

l) 「`Enter the Shared Secret :`」プロンプトで、1 つまたは複数の Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に登録するために使用する共有秘密を入力し、Enter キーを押します。

m) 「`Confirm Shared Secret :`」プロンプトで、もう一度共有秘密を入力し、Enter キーを押します。

n) 「`Do you want Statistics Collection (yes/no)`」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。
今は統計情報収集を有効にしない場合は、no と入力してインストールを続行します。Cisco UCS Central CLI を使用して統計情報収集をいつでもイネーブルにできます。yes と入力した場合は、データベース サーバの情報を指定するように求められます。参照先データベース サーバ情報, （43 ページ）

o) 「`Proceed with this configuration.Please confirm[yes/no]`」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。
これらの手順の完了時にエラーが発生したと思われる場合、no と入力し、Enter キーを押します。その後、質問に再度回答するよう求められます。

設定を続けることを確認した後で、ネットワーク インターフェイスは設定を再初期化し、Cisco UCS Central は IP アドレスでアクセスできるようになります。

VMware への Cisco UCS Central ISO ファイルのインストール

（注） VMware の場合、OVA ファイルからインストールすることを推奨します。ISO ファイルからのインストールには制限があります。詳細については、「https://tools.cisco.com/bugsearch/bug/CSCuv32055」を参照してください。

手順

ステップ 1 次の設定で VM を作成します。

設定	推奨値
[Configuration]	カスタム設定
[Name]	Cisco UCS Central 導入に関する情報がわかる名前
[Virtual machine type]	7 以降
[Guest operating system]	Linux RHEL 5.0（64 ビット）などのサポートされるオペレーティング システム
[Number of vCPU]	4
[Memory]	12GB 以上
[Virtual adapter]	VM ネットワークを使用する 1 台の仮想アダプタ
[SCSI controller]	LSI Logic Parallel
[Virtual disk]	使用可能なディスク領域 40GB 以上 また、ステップ 2 で 2 番目の 40 GB 仮想ディスクを作成する必要があります。
[Advanced options]	仮想デバイス ノードの SCSI

ステップ 2 [Edit Settings] で、スタンドアロン インストール用に 40 GB 以上の使用可能ディスク領域と、リモート ディスク クラスター インストール用にさらに 40 GB の使用可能ディスク領域を持つ新しい VM ハード ディスクを追加します。

ステップ 3 [Options] メニューから、次を実行します。

a) ブート オプションを変更するために、[Force BIOS Setup] を確認します。

b) [Power on Boot Delay] を指定します。

c) [Failed Boot Recovery] を確認します。

ステップ 4 CD/DVD ドライブに Cisco UCS Central ISO イメージをマウントします。

ステップ 5 VM を起動し、コンソールに接続します。

ステップ 6 ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Install Cisco UCS Central] を選択します。

Cisco UCS Central インストーラが、VM に必要な RAM とディスク容量（40 GB のディスク 2 個）があることを確認します。VM が要件を満たせば、ディスクをフォーマットしてファイルを転送し、Cisco UCS Central をインストールします。

ステップ 7 Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。

a) 「`Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore]`」プロンプトで、setup と入力し、Enter キーを押します。

b) 「`Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address :`」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
この Cisco UCS Central VM 用に予約された固定 IP アドレスを入力する必要があります。Cisco UCS Central は、Dynamic Host Configuration Protocol（DHCP）をサポートしていません。

c) 「`Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask :`」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てるネットマスクを入力し、Enter キーを押します。

d) 「`Enter the Default Gateway :`」プロンプトで、Cisco UCS Central で使用されるデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。

e) 「`Is this VM part of a cluster(select 'no' for standalone) (yes/no)`」プロンプトで、no を選択し、Enter キーを押します。
yes を選択すると、クラスタ モードで Cisco UCS Central をセットアップします。クラスタ モードでの Cisco UCS Central のセット アップの詳細については、クラスタ モードでの Cisco UCS Central のインストール，（35 ページ） を参照してください。

f) 「`Enter the UCS Central VM host name :`」プロンプトで、Cisco UCS Central VM に使用するホスト名を入力し、Enter キーを押します。

g) （任意）「`Enter the DNS Server IPv4 Address :`」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用する DNS サーバの IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
Cisco UCS Central で DNS サーバを使用しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。

h) （任意）「`Enter the Default Domain Name :`」プロンプトで、Cisco UCS Central を追加するドメインを入力し、Enter キーを押します。
ドメインに Cisco UCS Central を追加しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。Cisco UCS Central は、localdomain というデフォルト ドメインを使用します。

i) 「`Enforce Strong Password(Yes/No)`」プロンプトで、強力なパスワード アラートを設定する場合は [yes] を選択して Enter キーを押します。

j) 「`Enter the admin Password :`」プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードを入力し、Enter キーを押します。

k) 「`Confirm admin Password :`」プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードをもう一度入力し、Enter キーを押します。

l) 「`Enter the Shared Secret :`」プロンプトで、1 つまたは複数の Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に登録するために使用する共有秘密を入力し、Enter キーを押します。

m) 「`Confirm Shared Secret :`」プロンプトで、もう一度共有秘密を入力し、Enter キーを押します。

n) 「`Do you want Statistics Collection (yes/no)`」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。
今は統計情報収集を有効にしない場合は、no と入力してインストールを続行します。Cisco UCS Central CLI を使用して統計情報収集をいつでもイネーブルにできます。yes と入力した場合は、

データベース サーバの情報を指定するように求められます。参照先データベース サーバ情報, (43 ページ)

o) 「`Proceed with this configuration.Please confirm[yes/no]`」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。
これらの手順の完了時にエラーが発生したと思われる場合、no と入力し、Enter キーを押します。その後、質問に再度回答するよう求められます。

ステップ 8 仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。

ステップ 9 Cisco UCS Central VM を再起動します。

Microsoft Hyper-V への Cisco UCS Central ISO ファイルのインストール

手順

ステップ 1 次の設定で VM を作成します。

設定	推奨値
[Name]	Cisco UCS Central 導入に関する情報がわかる名前
[RAM]	12GB 以上
[Network adapter]	デフォルト
[Number of vCPU]	4
[Virtual disk]	使用可能なディスク領域 40GB 以上 またステップ 3 で、IDE コントローラにおいて 2 番目の 40GB 仮想ディスクを作成する必要があります。

ステップ 2 VM の設定で、次の手順を実行します。

a) デフォルトのネットワーク アダプタを削除します。

b) 従来型のネットワーク アダプタを作成します。

c) [Apply] をクリックします。

ステップ 3 最初の仮想ドライブと同じ IDE コントローラで、使用可能なディスク領域が 40 GB 以上ある VM の 2 番目の仮想ドライブを作成します。

ステップ 4 [VM settings] > [Management] > [Integration Service] で、[Time synchronization] のチェックを外しディセーブルにします。

ステップ 5 CD/DVD ドライブに Cisco UCS Central ISO イメージをマウントします。

ステップ 6 VM を起動し、コンソールに接続します。

ステップ 7 ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Install Cisco UCS Central] を選択します。

Cisco UCS Central インストーラが、VM に必要な RAM とディスク容量（40 GB のディスク 2 個）があることを確認します。VM が要件を満たせば、ディスクをフォーマットしてファイルを転送し、Cisco UCS Central をインストールします。

ステップ 8 Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。

a) 「`Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore]`」プロンプトで、setup と入力し、Enter キーを押します。

b) 「`Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address :`」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
この Cisco UCS Central VM 用に予約された固定 IP アドレスを入力する必要があります。Cisco UCS Central は、Dynamic Host Configuration Protocol（DHCP）をサポートしていません。

c) 「`Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask :`」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てるネットマスクを入力し、Enter キーを押します。

d) 「`Enter the Default Gateway :`」プロンプトで、Cisco UCS Central で使用されるデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。

e) 「`Is this VM part of a cluster(select 'no' for standalone) (yes/no)`」プロンプトで、no を選択し、Enter キーを押します。
yes を選択すると、クラスタ モードで Cisco UCS Central をセットアップします。クラスタ モードでの Cisco UCS Central のセット アップの詳細については、クラスタ モードでの Cisco UCS Central のインストール, （35 ページ） を参照してください。

f) 「`Enter the UCS Central VM host name :`」プロンプトで、Cisco UCS Central VM に使用するホスト名を入力し、Enter キーを押します。

g) （任意） 「`Enter the DNS Server IPv4 Address :`」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用する DNS サーバの IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
Cisco UCS Central で DNS サーバを使用しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。

h) （任意） 「`Enter the Default Domain Name :`」プロンプトで、Cisco UCS Central を追加するドメインを入力し、Enter キーを押します。
ドメインに Cisco UCS Central を追加しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。Cisco UCS Central は、localdomain というデフォルト ドメインを使用します。

i) 「`Enforce Strong Password(Yes/No)`」プロンプトで、強力なパスワード アラートを設定する場合は [yes] を選択して Enter キーを押します。

j) 「`Enter the admin Password :`」プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードを入力し、Enter キーを押します。

k) 「`Confirm admin Password :`」プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードをもう一度入力し、Enter キーを押します。

l) 「`Enter the Shared Secret :`」プロンプトで、1 つまたは複数の Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に登録するために使用する共有秘密を入力し、Enter キーを押します。

m) 「`Confirm Shared Secret :`」プロンプトで、もう一度共有秘密を入力し、Enter キーを押します。

n) 「`Do you want Statistics Collection (yes/no)`」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。
今は統計情報収集を有効にしない場合は、no と入力してインストールを続行します。Cisco UCS Central CLI を使用して統計情報収集をいつでもイネーブルにできます。yes と入力した場合は、データベース サーバの情報を指定するように求められます。参照先データベース サーバ情報, (43 ページ)

o) 「`Proceed with this configuration.Please confirm[yes/no]`」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。
これらの手順の完了時にエラーが発生したと思われる場合、no と入力し、Enter キーを押します。その後、質問に再度回答するよう求められます。

ステップ 9 仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。

ステップ 10 Cisco UCS Central VM を再起動します。

KVM ハイパーバイザへの Cisco UCS Central ISO ファイルのインストール

（注） KVM ハイパーバイザに Cisco UCS Central をインストールする際は、セットアップがグラフィック モードで実行されます。テキスト モードでのインストールはサポートされません。

手順

ステップ 1 次の設定で VM を作成します。

設定	推奨値
[Name]	Cisco UCS Central 導入に関する情報がわかる名前

設定	推奨値
[RAM]	12GB 以上
[Network adapter]	デフォルト
[Number of vCPU]	4
[Virtual disk]	使用可能なディスク領域 40GB 以上 またステップ 3 で、IDE コントローラにおいて 2 番目の 40GB 仮想ディスクを作成する必要があります。

ステップ 2 最初の仮想ドライブと同じ IDE コントローラで、使用可能なディスク領域が 40 GB 以上ある VM の 2 番目の仮想ドライブを作成します。

ステップ 3 CD/DVD ドライブに Cisco UCS Central ISO イメージをマウントします。

ステップ 4 VM を起動し、コンソールに接続します。

ステップ 5 ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Install Cisco UCS Central] を選択します。

Cisco UCS Central インストーラが、VM に必要な RAM とディスク容量（40 GB のディスク 2 個）があることを確認します。VM が要件を満たせば、ディスクをフォーマットしてファイルを転送し、Cisco UCS Central をインストールします。

ステップ 6 Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。

a) 「`Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore]`」プロンプトで、setup と入力し、Enter キーを押します。

b) 「`Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address :`」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
この Cisco UCS Central VM 用に予約された固定 IP アドレスを入力する必要があります。Cisco UCS Central は、Dynamic Host Configuration Protocol（DHCP）をサポートしていません。

c) 「`Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask :`」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てるネットマスクを入力し、Enter キーを押します。

d) 「`Enter the Default Gateway :`」プロンプトで、Cisco UCS Central で使用されるデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。

e) 「`Is this VM part of a cluster(select 'no' for standalone) (yes/no)`」プロンプトで、no を選択し、Enter キーを押します。
yes を選択すると、クラスタ モードで Cisco UCS Central をセットアップします。クラスタ モードでの Cisco UCS Central のセット アップの詳細については、クラスタ モードでの Cisco UCS Central のインストール，（35 ページ） を参照してください。

f) 「`Enter the UCS Central VM host name :`」プロンプトで、Cisco UCS Central VM に使用するホスト名を入力し、Enter キーを押します。

g) （任意） 「`Enter the DNS Server IPv4 Address :`」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用する DNS サーバの IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
Cisco UCS Central で DNS サーバを使用しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。

h) （任意） 「`Enter the Default Domain Name :`」プロンプトで、Cisco UCS Central を追加するドメインを入力し、Enter キーを押します。
ドメインに Cisco UCS Central を追加しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。Cisco UCS Central は、localdomain というデフォルト ドメインを使用します。

i) 「`Enforce Strong Password(Yes/No)`」プロンプトで、強力なパスワード アラートを設定する場合は [yes] を選択して Enter キーを押します。

j) 「`Enter the admin Password :`」プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードを入力し、Enter キーを押します。

k) 「`Confirm admin Password :`」プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードをもう一度入力し、Enter キーを押します。

l) 「`Enter the Shared Secret :`」プロンプトで、1 つまたは複数の Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に登録するために使用する共有秘密を入力し、Enter キーを押します。

m) 「`Confirm Shared Secret :`」プロンプトで、もう一度共有秘密を入力し、Enter キーを押します。

n) 「`Do you want Statistics Collection (yes/no)`」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。
今は統計情報収集を有効にしない場合は、no と入力してインストールを続行します。Cisco UCS Central CLI を使用して統計情報収集をいつでもイネーブルにできます。yes と入力した場合は、データベース サーバの情報を指定するように求められます。参照先データベース サーバ情報, （43 ページ）

o) 「`Proceed with this configuration.Please confirm[yes/no]`」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。
これらの手順の完了時にエラーが発生したと思われる場合、no と入力し、Enter キーを押します。その後、質問に再度回答するよう求められます。

ステップ 7 仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。

ステップ 8 Cisco UCS Central VM を再起動します。

クラスタ モードでの Cisco UCS Central のインストール

可用性の高い構成で、Cisco UCS Central を 2 台の仮想マシンにインストールできます。クラスタ モードでは、一方の VM がプライマリ ノードとして、他方がセカンダリ ノードとして機能します。このクラスタ設定では、VM で障害が発生した場合に冗長性およびハイ アベイラビリティを提供します。

クラスタ設定により、VM はデータベースおよびイメージ リポジトリとして NFS 共有ストレージ ディスクを使用します。その結果、共有ストレージにファームウェア イメージをダウンロードします。レポートに使用される統計情報も、共有ストレージに収集および保存されます。

重要 クラスタ設定で Cisco UCS Central をインストールするときは、次のガイドラインに注意してください。

- クラスタ内の 2 つの VM は、同じサーバ上には存在しません。両方の VM が同じサーバ上にある場合は、1 つのホストの障害によってクラスタがダウンします。
- ホストは両方とも、同じバージョンの ESX、HyperV、または KVM がインストールされている必要があります。
- 両方のホストが、同じ NFS 共有ストレージ サーバにアクセスできなければなりません。
- VM は、両方とも同じサブネット上にある必要があります。
- 両方の VM に Cisco UCS Central の同じリリース バージョンをインストールする必要があります。
- 最初のノードを完全にインストールし、それから 2 番目のノードをインストールする必要があります。同時にインストールすると、パーティション テーブルが破損または上書きされ、共有ストレージの導入済みデータがすべて失われる可能性があります。
- Cisco UCS Central リリース 1.5 以降では、NFS 共有ストレージのみがサポートされます。
- 大規模な環境では、スナップショットがパフォーマンスに影響する可能性があります。スナップショットの適用後に何らかの劣化に気付いた場合、スナップショットを削除することで、パフォーマンスを改善できる可能性があります。

共有ストレージの NFS サーバのセットアップ

NFS サーバには、Cisco UCS Central のさまざまなアプリケーションによって使用されるデータベースとイメージが保存されます。NFS サーバの初期設定に、しばらく時間がかかる場合があります。タイムアウト メッセージが終了するまで待機してください。

重要 NFS サーバは、できるだけ Cisco UCS Central VM の近くに配置する必要があります。NFS サーバを Cisco UCS Central と同じサブネット上に配置することを推奨します。

はじめる前に

- ディレクトリを作成する NFS サーバに 40 GB 以上の使用可能領域があることを確認します。
- NFS サーバの IP アドレスを取得します。

- 最適なシステムパフォーマンスを確保するために、ネットワーク遅延が 0.5 ms 未満であることを確認します。

手順

ステップ 1 40 GB 以上があるパーティションまたはボリュームを作成します。

ステップ 2 NFS ディレクトリをエクスポートします。
エディタを使用してファイル `/etc/exports` を開き、NFS ディレクトリをエクスポートします。

例：
`/nfs *(rw,sync,no_root_squash)`。ここで、`/nfs` はエクスポートする必要のあるディレクトリです。オプション `rw` と `no_root_squash` を指定して、ディレクトリをエクスポートする必要があります。

ステップ 3 NFS サービスを再起動します。

例：
/sbin/service nfs restart

ステップ 4 Cisco UCS Central VM からの NFS サーバ ディレクトリのマウントを妨げる可能性のあるファイアウォール ルールが NFS サーバ上にあれば、それを削除します。

NFS サーバまたはディレクトリの変更

次のコマンドを使用して、既存の NFS サーバまたは NFS 共有ストレージ ディレクトリを編集および変更できます。

- **既存の NFS サーバを新しいサーバに変更する**：`edit-nfs`*IP Addreess for the new NFS server NFS shared directory name*
- **同じサーバの共有ディレクトリを変更する**：`edit-nfs`*NFS IP Address New NFS shared directory name*

RDM 共有ストレージから NFS 共有ストレージへの変更

Cisco UCS Central CLI を使用して RDM から NFS に共有ストレージを変更できます。必ずプライマリ ノードの NFS サーバに変更してください。セカンダリ ノードを別個に変更する必要はありません。

手順

ステップ 1 UCSC # **connect local-mgmt**
ローカル管理に接続します。

ステップ 2 UCSC (local-mgmt) # **swtich-to-nfs***NFS IP Address Shared Storage Directory*
NFS の IP アドレスを使用して NFS ディレクトリに切替え、ディレクトリを変更します。

次の作業

このメッセージの後、システムにログインし、**show***storage-device* と入力してストレージデバイスが変更されていることを確認します。

ノード A への Cisco UCS Central のインストール

はじめる前に

（注） Cisco UCS Central VM では、初回起動時に 1 回限りのインストール プロセスを実行します。ログインする前にインストールを完了してください。

次の情報について確認してください。

- ホスト名、IP アドレス、デフォルト ゲートウェイ、DNS サーバと DNS ドメイン名といったネットワーク データ
- 新しいクラスタをセット アップするかどうか
- 管理者のユーザ名とパスワード
- クラスタ ノード間および Cisco UCS Manager との通信のための共有秘密
- ピア Cisco UCS Central ノードの IP アドレス
- 仮想 IP アドレス

手順

ステップ 1 ハイパーバイザからアクセス可能なフォルダに Cisco UCS Central OVA または ISO ファイルを保存します。

ステップ 2 ハイパーバイザの必要に応じて、サポートされるハイパーバイザに Cisco UCS Central OVA ファイルを開くまたはインポートします。
VM の起動が完了するまで次の手順に進まないでください。

ステップ 3 Cisco UCS Central VM の電源をオンにします。

ステップ 4 Cisco UCS Central VM にコンソール ウィンドウを開きます。

ステップ 5 Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。

a) 「`Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore]`」プロンプトで setup と入力し、Enter キーを押します。
b) 「`Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address`」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
c) 「`Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask`」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用するデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。
d) 「`Enter the VM IPv4 Default Gateway`」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用するデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。
e) 「`Is this VM part of a cluster(select 'no' for standalone) (yes/no)`」プロンプトで、yes と入力して Enter キーを押します。
f) 「`Is this VM part of a new cluster(select 'no' to add to an existing cluster) (yes/no)`」プロンプトで、yes と入力して Enter キーを押します。
g) 「`Enter the UCS Central VM Hostname`」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てられたホスト名を入力し、Enter キーを押します。
h) 「`Enter the DNS Server IPv4 Address`」プロンプトで、Cisco UCS Central で使用される DNS サーバの IPv4 アドレスを入力し、Enter キーを押します。
i) 「`Enter the Default Domain Name`」プロンプトで、Cisco UCS Central で使用されるデフォルト ドメイン名を入力し、Enter キーを押します。
j) 「`Enter the NFS IPv4 Address`」プロンプトで、NFS IPv4 アドレスを入力し、Enter キーを押します。
k) 「`Enter the NFS Directory`」プロンプトで、NFS ディレクトリを入力し、Enter を押します。
l) 「`Enforce Strong Password (yes/no)`」プロンプトで、no と入力し、Enter キーを押します。
m) 「`Enter the admin Password`」プロンプトで、管理者パスワードを入力し、Enter キーを押します。
n) 「`Confirm the admin Password`」プロンプトで、もう一度 admin パスワードを入力し、Enter キーを押します。
o) 「`Enter the Shared Secret`」プロンプトで、共有秘密を入力し、Enter キーを押します。
p) 「`Confirm Shared Secret`」プロンプトで、もう一度共有秘密を入力し、Enter キーを押します。
q) 「`Enter the Peer UCS Central Node IPv4 Address`」プロンプトで、ピア UCS central ノードの IPv4 アドレスを入力し、Enter キーを押します。
r) 「`Enter the Virtual IPv4 Address`」プロンプトで、Cisco UCS Central に使用される仮想 IPv4 アドレスを入力し、Enter キーを押します。
s) 「`Do you want Statistics Collection (yes/no)`」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。
今は統計情報収集を有効にしない場合は、no と入力してインストールを続行します。Cisco UCS Central CLI を使用して統計情報収集をいつでもイネーブルにできます。yes と入力した場合は、データベース サーバの情報を指定するように求められます。参照先データベース サーバ情報, (43 ページ)

t) 「`Proceed with this configuration? Please confirm (yes/no)`」プロンプトで、yes と入力して Enter キーを押して、システムのインストールを開始します。

ノード B への Cisco UCS Central のインストール

はじめる前に

次の情報について確認してください。

- UCS Central IPv4 アドレス、IPv4 ネットマスクおよび IPv4 デフォルト ゲートウェイ
- IP アドレス、ピア ノードの管理者ユーザ名およびパスワード

手順

ステップ 1 ハイパーバイザからアクセス可能なフォルダに Cisco UCS Central OVA または ISO ファイルを保存します。

ステップ 2 ハイパーバイザの必要に応じて、サポートされるハイパーバイザに Cisco UCS Central OVA ファイルを開くまたはインポートします。
VM の起動が完了するまで次の手順に進まないでください。

ステップ 3 Cisco UCS Central VM の電源をオンにします。

ステップ 4 Cisco UCS Central VM にコンソール ウィンドウを開きます。

ステップ 5 Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。

a) 「`Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore]`」プロンプトで setup と入力し、Enter キーを押します。

b) 「`Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address`」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。

c) 「`Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask`」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用するデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。

d) 「`Enter the VM IPv4 Default Gateway`」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用するデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。

e) 「`Is this VM part of a cluster(select 'no' for standalone) (yes/no)`」プロンプトで、yes と入力して Enter キーを押します。

f) 「`Is this VM part of a new cluster(select 'no' to add to a new cluster) (yes/no)`」プロンプトで、no を入力し、Enter キーを押します。

g) 「`Enter the Peer UCS Central Node IPv4 Address`」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。

h) 「`Enter the admin Username on Peer Node`」プロンプトで、ピア ノードの admin ユーザ名を入力し、Enter キーを押します。

i) 「Enter the admin Password on Peer Node」プロンプトで、ピア ノードの admin パスワードを入力し、Enter キーを押します。

j) 「Proceed with this configuration? Please confirm (yes/no)」プロンプトで、yes と入力して Enter キーを押して、システムの再起動を開始します。

Hyper-V の RDM 共有ストレージの追加とセットアップ

重要 共有ストレージへのパスは 1 つしか持てません。マルチパスはサポートされません。

Cisco UCS Central VM に共有ストレージを追加するときにパスが複数ある場合、その他すべてのパスを無効にする必要があります。その他のパスを無効にするには、

1. [Edit VM Settings] をクリックし、共有ストレージを選択し、[Manage Paths] をクリックします。
2. その他のすべてのパスを右クリックし、[Disable] をクリックします。

手順

ステップ 1 ストレージ アレイで 40 GB 以上の LUN を作成し、ノード A をインストールした Hyper-V ホストに割り当てます。
ディスクはオフライン モードである必要があります。

ステップ 2 新しい SCSI コントローラを使用する「物理ハード ディスク」として VM にディスクを追加します。

ステップ 3 Powershell コマンド ウィンドウで、Set-ExecutionPolicy unrestricted コマンドを実行します。

ステップ 4 SCSI-3 PGR を機能させるには、SCSI フィルタリングをディセーブル化する必要があります。このディスクの SCSI フィルタリングをディセーブル化するには、パラメータとして仮想マシンの名前を使用して、両方の Hyper-V マシンで次のスクリプトを保存および実行します。
ナレーション：

```
$HyperVGuest = $args[0]
$VMManagementService = gwmi Msvm_VirtualSystemManagementService -namespace
"root\virtualization"
foreach ($Vm in gwmi Msvm_ComputerSystem -namespace "root\virtualization" -Filter
"elementName='$HyperVGuest'")
{
$SettingData = gwmi -Namespace "root\virtualization" -Query "Associators of {$Vm} Where
ResultClass=Msvm_VirtualSystemGlobalSettingData AssocClass=Msvm_ElementSettingData"
$SettingData.AllowFullSCSICommandSet = $true
$VMManagementService.ModifyVirtualSystem($Vm,$SettingData.PSBase.GetText(1)) | out-null
}
```

例：
Hyper-V ホストにスクリプトを格納し（たとえば `c:\` などに）、ノード A の名前が `UCSC-Node-1` でファイル名が `DisableSCSIFiltering.ps1` の場合は、[Powershell] ウィンドウを開き、スクリプト `C:\> .\DisableSCSIFiltering.ps1 UCSC-Node-1` を実行します。

重要 正しい VM 名の両方の Hyper-V マシン上でこのスクリプトを実行する必要があります。

Hyper-V に共有ストレージが追加されました。共有ストレージを設定するには、次を実行します。

ステップ 5 ノード A に追加した LUN を、ノード B をインストールした Hyper-V ホストにマップします。これで、両方の Hyper-V ホストが同じ LUN を表示できるようになります。

ステップ 6 ノード B にこの LUN を追加します。

（注） クラスタセットアップでは、RDM リンクがプライマリ ノード上でダウンすると、DME がデータベースに書き込めなくなります。これにより、プライマリ ノード上のクラッシュと下位ノードへのフェールオーバーが発生します。下位ノードがプライマリ ノードとして処理を引き継ぎます。その後で、データベースが新しいプライマリ ノード上で読み書きモードでマウントされます。RDM リンクがダウンしているため、古いプライマリ ノードで**アンマウント**が失敗します。RDM リンクが機能するようになると、データベースは古いプライマリ（現在の下位）ノード上で読み取り専用モードでマウントされます。

回避策として、現在の下位ノードで **pmon** サービスを再起動するか、ノード自体を再起動することができます。これらのプロセスのどちらでも、読み取り専用パーティションがアンマウントされ、適切なクリーンアップが実行されます。

VMware での RDM 共有ストレージの追加およびセットアップ

重要 共有ストレージへのパスは 1 つしか持てません。マルチパスはサポートされません。

Cisco UCS Central VM に共有ストレージを追加するときにパスが複数ある場合、その他すべてのパスを無効にする必要があります。その他のパスを無効にするには、

1. [Edit VM Settings] をクリックし、共有ストレージを選択し、[Manage Paths] をクリックします。
2. その他のすべてのパスを右クリックし、[Disable] をクリックします。

手順

ステップ 1 ストレージ アレイで 40 GB 以上の LUN を作成し、ノード A をインストールした ESXi ホストに割り当てます。

ステップ 2 物理互換モードで Raw Device Mapping として VM にストレージ アレイを追加します。すべてのデフォルトのオプションを選択してください。

ステップ 3 Raw Device Mapping のハード ディスクのパス選択ポリシーを固定（VMware）に変更します。
これで VMware に共有ストレージが追加されました。共有ストレージを設定するには、次のことを実行します。

ステップ 4 ノード A に追加した LUN を、ノード B をインストールした ESXi ホストにマップします。
これで、両方の ESXi ホストが同じ LUN を表示できるようになります。

ステップ 5 この ESXi ホストに、それぞれ別の VSphere クライアント セッションを開きます。
vCenter Server を使用して VM を追加しないでください。追加した場合、LUN マッピングの競合を拒否します。

ステップ 6 物理互換モードで Raw Device Mapping として VM に追加します。すべてのデフォルトのオプションを選択してください。

ステップ 7 Raw Device Mapping のパス選択ポリシーを Fixed VMware に変更します。

（注） クラスタ セットアップでは、RDM リンクがプライマリ ノード上でダウンすると、DME がデータベースに書き込めなくなります。これにより、プライマリ ノード上のクラッシュと下位ノードへのフェールオーバーが発生します。下位ノードがプライマリ ノードとして処理を引き継ぎます。その後で、データベースが新しいプライマリ ノード上で読み書きモードでマウントされます。RDM リンクがダウンしているため、古いプライマリ ノードで**アンマウント**が失敗します。RDM リンクが機能するようになると、データベースは古いプライマリ（現在の下位）ノード上で読み取り専用モードでマウントされます。

回避策として、現在の下位ノードで **pmon** サービスを再起動するか、ノード自体を再起動することができます。これらのプロセスのどちらでも、読み取り専用パーティションがアンマウントされ、適切なクリーンアップが実行されます。

データベース サーバ情報

インストール中に、統計情報収集を有効にするかどうかの質問で [Yes] と回答した場合、Cisco UCS Central のインストール中にデータベースの詳細を指定する必要があります。

- D：Default（内部 Postgres データベース）。Cisco UCS Central に 5 つ以上 Cisco UCS ドメインがある場合、内部データベースは推奨されません。
- P：Postgre

- O：Oracle
- M：Microsoft SQL Server

外部データベース オプションのいずれかに P または O を選択した場合、次のデータベース情報があることを確認してください。

- タイプ：Oracle、PostgreSQL、および MSSQL は、サポートされているオプションです。
- サーバ名または IP アドレス：Cisco UCS Central からアクセス可能である必要があります。
- ポート：データベース サーバにアクセスするためのカスタム DB のポートを設定できます。このポートを介して Cisco UCS Central のデータベース サーバへのアクセスをイネーブルにするために、ファイアウォール設定でこのポートをイネーブルにする必要があります。
  - Oracle のデフォルト ポート：1521
  - PostgreSQL のデフォルト ポート：5432
  - MSSQL のデフォルト ポート：1433

    ポート情報については、データベース管理者に確認してください。
- 名前：統計データを格納するデータベースの名前。
- ユーザ名：データベースの作成、削除、読み取りおよび書き込み管理者特権を持つユーザ。
- パスワード：統計情報収集が DB パスワードの期限切れによって中断されないために、パスワードの有効期限をなしまたは 1 年に設定することを推奨します。

スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central VM の復元

Cisco UCS Central リリース 1.0 から完全な状態のバックアップを復元する場合は、Cisco UCS Central リリース 1.1 の OVA ファイルを使用できません。

（注） この手順では、OVA ファイルを使用して復元するプロセスについて説明します。

はじめる前に

Cisco UCS Central VM の設定を復元するには、使用する Cisco UCS Central システムから拡張子 .tgz のバックアップ ファイルを取得する必要があります。Cisco UCS Central システムのバックアップ方法については、『Cisco UCS Central のユーザ マニュアル』および『CLI リファレンス マニュアル』の「バックアップと復元の管理」を参照してください。

手順

ステップ 1 ハイパーバイザからアクセス可能なフォルダに Cisco UCS Central OVA ファイルを保存します。

ステップ 2 ハイパーバイザの必要に応じて、サポートされるハイパーバイザに Cisco UCS Central OVA ファイルを開くまたはインポートします。
VM の起動が完了するまで次の手順に進まないでください。

ステップ 3 まだ OVA ファイルのインポート作業を実行していない場合、Cisco UCS Central VM の電源をオンにします。

ステップ 4 Cisco UCS Central VM にコンソール ウィンドウを開きます。

ステップ 5 Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。

a) 「`Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore]`」プロンプトで、restore と入力し、Enter キーを押します。

b) 「`Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address :`」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。

c) 「`Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask :`」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てるネットマスクを入力し、Enter キーを押します。

d) 「`Enter the Default Gateway :`」プロンプトで、Cisco UCS Central で使用されるデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。

e) 「`Enter the File copy protocol[tftp/scp/ftp/sftp] :`」プロンプトで、Cisco UCS Central VM へバックアップ ファイルをコピーするために使用するサポート対象プロトコルを入力し、Enter キーを押します。

f) 「`Enter the Backup server IPv4 Address :`」プロンプトで、バックアップ ファイルを保存するサーバに割り当てられる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。

g) 「`Enter the Backup file path and name :`」プロンプトで、サーバ上のバックアップ ファイルの完全なファイルパスと名前を入力し、Enter キーを押します。

h) 「`Enter the Username to be used for backup file transfer :`」プロンプトで、システムがリモート サーバにログインするために使用するユーザ名を入力し、Enter キーを押します。

i) （任意） 「`Enter the Password to be used for backup file transfer :`」プロンプトで、リモートサーバのユーザ名に使用するパスワードを入力し、Enterキーを押します。

j) 「`Proceed with this configuration.Please confirm[yes/no]`」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。
これらの手順の完了時にエラーが発生したと思われる場合、no と入力し、Enter キーを押します。その後、質問に再度回答するよう求められます。

設定を続けることを確認した後で、ネットワーク インターフェイスは設定を再初期化し、Cisco UCS Central は IP アドレスでアクセスできるようになります。

次の作業

Cisco UCS Central が復元された後、Cisco UCS Central にログインし、イメージ ライブラリにファームウェア イメージをダウンロードします。いずれかのファームウェア イメージがサービス プロファイルで参照されている場合は、中断状態から Cisco UCS ドメインを再認識する前に、イメージがダウンロードされ、イメージ ライブラリで使用できることを確認しておく必要があります。

クラスタ モードでの Cisco UCS Central VM の復元

デフォルトでは、復元された VM はノード A に設定されます。これが新しいクラスタの場合、ノード B をインストールしてクラスタ モードに追加する必要があります。

（注） 完全な復元を開始する前に、別の NFS 共有ディレクトリを使用するか、または以前使用した NFS 共有ディレクトリを完全にクリーンアップすることを推奨します。

はじめる前に

Cisco UCS Central VM の設定を復元するには、使用する Cisco UCS Central システムから拡張子 .tgz のバックアップ ファイルを取得する必要があります。Cisco UCS Central システムのバックアップ方法については、『Cisco UCS Central User Manual』および『CLI Reference Manual』の「Managing Back Up and Restore」を参照してください。

手順

ステップ 1 ハイパーバイザからアクセス可能なフォルダに Cisco UCS Central OVA または ISO ファイルを保存します。

ステップ 2 ハイパーバイザの必要に応じて、サポートされるハイパーバイザに Cisco UCS Central OVA ファイルを開くまたはインポートします。
VM の起動が完了するまで次の手順に進まないでください。

ステップ 3 Cisco UCS Central VM の電源をオンにします。

ステップ 4 Cisco UCS Central VM にコンソール ウィンドウを開きます。

ステップ 5 Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。

a) 「`Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore]`」プロンプトで restore と入力し、Enter キーを押します。

b) 「`Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address`」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。

c) 「`Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask`」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用するデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。

d) 「`Enter the VM IPv4 Default Gateway`」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用するデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。

e) 「`Enter File copy protocol]tftp/scp/ftp/sftp]:`」プロンプトで、Cisco UCS Central VM へバックアップ ファイルをコピーするために使用するサポート対象プロトコルを入力し、Enter キーを押します。

f) 「`Enter the Backup server IPv4 Address :`」プロンプトで、バックアップ ファイルを保存するサーバに割り当てられる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。

g) 「`Enter the Backup file path and name :`」プロンプトで、サーバ上のバックアップ ファイルの完全なファイルパスと名前を入力し、Enter キーを押します。

h) 「`Enter the Username to be used for backup file transfer :`」プロンプトで、システムがリモート サーバにログインするために使用するユーザ名を入力し、Enter キーを押します。

i) （任意） 「`Enter the Password to be used for backup file transfer :`」プロンプトで、リモート サーバのユーザ名に使用するパスワードを入力し、Enter キーを押します。

j) 「`Proceed with this configuration? Please confirm (yes/no)`」プロンプトで、yes と入力して Enter キーを押して、システムのインストールを開始します。

次の作業

クラスタのノード B を設定します。ノード B への Cisco UCS Central のインストール, （40 ページ）を参照してください。

第 5 章

ログインおよび設定

この章は、次の項で構成されています。

- ログインおよび設定の概要，49 ページ
- admin パスワードのリセット，51 ページ
- パスワードと共有秘密のガイドライン，52 ページ
- 共有秘密のリセット，52 ページ

ログインおよび設定の概要

Cisco UCS Central GUI および Cisco UCS Central CLI の両方を使用して、Cisco UCS Central にログインできます。両方のインターフェイスを使用すると、いくつかの例外を除いて、ほとんどすべての Cisco UCS Central 操作が実行できます。

Cisco UCS Central GUI にアクセスするには、HTTP および HTTPS の両方のプロトコルを使用できます。

一部の機能へのアクセスには、必要な権限を持っている必要があります。詳細については、『Cisco UCS Central コンフィギュレーション ガイド』を参照してください。

Cisco UCS Central GUI へのログインとログアウト

Cisco UCS Central GUI へログインするためのデフォルトの HTTP ポートおよび HTTPS Web リンクは次のとおりです。

- **HTTP**：HTML5 Cisco UCS Central GUI のデフォルト HTTP Web リンクは `http://UCSCentral_IP` です。Flash ベースの GUI を使用する場合、パスは `http://UCSCentral_IP/flex.html` です。

- **HTTPS**：HTML5 Cisco UCS Central GUI のデフォルト HTTPS Web リンクは `https://UCSCentral_IP` です。Flash ベースの GUI を使用する場合、パスは `https://UCSCentral_IP/flex.html` です。

（注） *UCSCentral_IP* は、Cisco UCS Central に割り当てられた IP アドレスを表します。クラスタ設定の場合、この IP アドレスは仮想 IP アドレスで、特定のノードに対して 1 つではありません。

手順

ステップ 1 Web ブラウザで、Cisco UCS Central GUI Web リンクを入力するか、ブラウザでブックマークを選択します。

ステップ 2 起動ページで、次の作業を行います。

a) ユーザ名およびパスワードを入力します。

b) [Log In] をクリックします。

次の作業

ログアウト

Cisco UCS Central GUI でタスクを完了した後に、右上隅にあるログアウト アイコンをクリックします。Cisco UCS Central GUI はただちにログアウトし、ブラウザの起動ページに戻ります。

Cisco UCS Central CLI へのログインとログアウト

Cisco UCS Central CLI へのアクセスに SSH または Telnet クライアントを使用します。

Cisco UCS Central CLI へログインするためのデフォルト アドレスは *UCSCentral_IP* です。

（注） UCSCentral_IP は、Cisco UCS Central に割り当てられた IP アドレスを表します。クラスタ設定の場合、この IP アドレスは仮想 IP アドレスで、特定のノードに対して 1 つではありません。

手順

ステップ 1 SSH クライアントから、Cisco UCS Central に割り当てられた IP アドレスに接続します。

ステップ 2 `log in as:` プロンプトで Cisco UCS Central のユーザ名を入力し、Enter キーを押します。

ステップ 3 `Password:` プロンプトで Cisco UCS Central のパスワードを入力し、Enter キーを押します。

次の作業

ログアウト

Cisco UCS Central CLI でタスクを完了した後に、exit と入力し、Enter キーを押します。ウィンドウを閉じるまで、exit と入力して Enter を押します。

（注） Cisco UCS Central CLI を終了すると、すべてのコミットされていないトランザクションのバッファがクリアされます。

admin パスワードのリセット

最初に Cisco UCS Central ソフトウェアのインストール時に、お使いのアカウント用に作成した管理者パスワードを紛失した場合は、管理者固有の作業を実行する前に、パスワードをリセットします。Cisco.com からソフトウェアを入手するときに、パスワード リセット イメージを取得していることを確認します。そうでない場合でも、パスワードリセットイメージをいつでも取得できます。パスワード リセット イメージ名の例：`ucs-central-passreset.1.5.1a.iso`

（注） クラスタ モードで Cisco UCS Central をインストールした場合、両方の VM を再起動し、それぞれの VM に個別に ISO をマウントし、両方の VM に同じパスワードをリセットします。

手順

ステップ 1 必要に応じて VM を再起動し、CD-ROM から起動するブート オプションに変更します。

ステップ 2 Password Reset ISO イメージを仮想 CD/DVD ドライブにマウントします。

ステップ 3 [UCS Central Admin Password Reset] ページで、次の手順を実行します

a) [Admin Password] フィールドに、新しい admin パスワードを入力します。

b) [Confirm Admin Password] フィールドに、もう一度新しい admin パスワードを入力します。

c) [Next] をクリックします。

ステップ 4 パスワード変更が完了した後、仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。

ステップ 5 Cisco UCS Central VM を再起動します。

パスワードと共有秘密のガイドライン

シスコでは、各 Cisco UCS Central ユーザに強力なパスワードを設定することを推奨します。パスワードは Cisco UCS Central でローカルで認証されたユーザ アカウントをそれぞれ作成する場合に必要です。admin、aaa、または domain-group-management 権限をもつユーザは、ユーザ パスワードについてパスワード強度のチェックを実行するために Cisco UCS Central を設定できます。作成するパスワードは、一義的である必要があります。

パスワード強度チェックをイネーブルにすると、各ユーザが強力なパスワードを使用する必要があります。Cisco UCS Central では、次の要件を満たさないパスワードまたは共有秘密は拒否されます。

- 8 ～ 80 文字を含む。
- 次の少なくとも 3 種類を含む。
  - 大文字
  - 小文字
  - 数字
  - 特殊文字
- 3 回以上連続して繰り返される文字を含めることはできません。**例**：aaabbb111@@@
- ユーザ名またはユーザ名を逆にしたものではない。
- パスワード ディクショナリ チェックに合格する。たとえば、パスワードには辞書に記載されている標準的な単語に基づいたものを指定することはできません。
- 次の記号を含まない。$（ドル記号）、?（疑問符）、=（等号）。
- ローカル ユーザおよび管理ユーザの場合は空白にしない。
- 強力なパスワードを作成する場合は、パスワードにいかなる順序でも 3 文字の連続した文字または数字を含めることはできません。

共有秘密のリセット

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCSC # **connect local-mgmt**	ローカル管理モードを開始します。
ステップ 2	UCSC (local-mgmt) # **set shared-secret**	新しい共有秘密を設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	プロンプトに、新しい共有秘密を入力します。	

次の例は、Cisco UCS Central の共有秘密をリセットする方法を示しています。

```
UCSC # connect local-mgmt
UCSC(local-mgmt) # set shared-secret
Enter Shared Secret: passW0rd2
```

次の作業

Cisco UCS Central で共有秘密をリセットする場合は、登録済みの各 Cisco UCS ドメイン の Cisco UCS Manager で共有秘密を更新する必要があります。

重要 Cisco UCS ドメイン を登録しないでください。

Cisco UCS Manager での共有秘密のリセット

Cisco UCS Central で共有秘密をリセットする場合は、登録済みの各 Cisco UCS ドメイン の Cisco UCS Manager で共有秘密を更新する必要があります。

重要 Cisco UCS ドメイン を登録しないでください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	登録されたドメインの Cisco UCS Manager CLI にログインします。	
ステップ 2	UCS-A# **scope system**	システム モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /system # **scope control-ep policy**	control-ep ポリシー モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /system/control-ep # **set shared-secret**	Cisco UCS Central の新しい共有秘密と一致する共有秘密（またはパスワード）を入力します。
ステップ 5	UCS-A /system/control-ep # **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次の例は、Cisco UCS Manager の共有秘密を更新する方法を示しています。

```
UCS-A # scope system
UCS-A /system # scope control-ep policy
UCS-A /system/control-ep # set shared-secret
Shared Secret for Registration: passW0rd2
UCS-A /system/control-ep* # commit-buffer
UCS-A /system/control-ep #
```

第 6 章

Cisco UCS Central のアップグレード

この章は、次の項で構成されています。

- Cisco UCS Central のリリース 1.5 へのアップグレード，55 ページ
- スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central のアップグレード，60 ページ
- クラスタ モードでの Cisco UCS Central のアップグレード，60 ページ
- スタンドアロン モードからクラスタ モードへ Cisco UCS Central を変更，61 ページ

Cisco UCS Central のリリース 1.5 へのアップグレード

スタンドアロン モードまたはクラスタ モードのいずれかで Cisco UCS Central をアップグレードできます。すでにスタンドアロン モードのインストールを使用している場合でも、リリース 1.5 にアップグレードする際に、クラスタ モードで環境を設定できます。クラスタ セットアップをアップグレードする場合は、を参照してください。 クラスタ モードでの Cisco UCS Central のインストール，（35 ページ）

ご使用のシステムが Cisco UCS Central リリース 1.5 のシステム要件を満たしていることを確認します。システム要件，（21 ページ）を参照してください。

重要

- Cisco UCS Central リリース 1.5 では、最低 12 GB の RAM および 40 GB のストレージが必要です。VM の RAM がこの要件を満たし、disk1 のサイズが 40 GB にアップグレードされていることを確認します。そうしない場合、アップグレードは失敗します。
- アップグレード後、Cisco UCS Central の HTML5 UI にログインする前に、ブラウザ キャッシュをクリアしてください。
- アップグレードが完了すると、Cisco UCS Central は登録されているすべての Cisco UCS ドメインのインベントリ データを更新します。ドメインの数によっては、すべてのインベントリを処理するまでシステムのパフォーマンスが劣化する可能性があります。

注意 Cisco UCS Central リリース 1.5 は、Cisco UCS Manager リリース 2.1(2)、2.1(3)、2.2(x)、3.0(x)、および 3.1(x) をサポートします。Cisco UCS Central をアップグレードする前に、まず Cisco UCS Manager をサポートされているリリースバージョンのいずれかにアップグレードする必要があります。最初に Cisco UCS Manager をアップグレードしないと、Cisco UCS Central はバージョンの不一致についてエラーを生成し、登録された Cisco UCS ドメインはすべて、Cisco UCS Central からのアップデートの受信を停止します。

サポートされるリリース 1.5 へのアップグレード パス

Cisco UCS Central のリリース 1.5 へのアップグレードは、次の 2 つのリリースのいずれかからのみ可能です。

- 1.3 から 1.5(1a) へ
- 1.4 から 1.5(1a) へ

重要

- Cisco UCS Central を 1.5 にアップグレードする前に、次のことを実行する必要があります。
  - Cisco UCS Manager が 2.1(2) 以降であることを確認します。完全な機能サポートを保証するために、Cisco UCS Manager を最新バージョンにアップグレードすることを推奨します。
  - Cisco UCS Central 1.0、1.1、または 1.2 を、サポートされる Cisco UCS Central 1.3 パッチ リリースのいずれかにアップグレードします。

    （注）
    - リリース 1.0 および 1.1 については、1.3 にアップグレードする前にリリース 1.2 にアップグレードする必要があります。
    - リリース 1.0 または 1.1 から 1.2 へのアップグレードでは、ISO アップグレードのみがサポートされています。
  - アップグレード プロセスを開始する前に、完全状態のバックアップが取られていることを確認します。
- 障害の発生時に環境を再作成できるように、バックアップと復元のオプションを使用することができます。アップグレードをするために、バックアップと復元を使用することは推奨されていません。以下は、バックアップと復元の推奨されるベスト プラクティスです。
  - Cisco UCS Central VM が失われたというディザスタ リカバリ シナリオでは、完全状態のバックアップを使用します。
  - 既存の Cisco UCS Central VM のバックアップ ファイルから設定をインポートするため、設定のインポートを使用します。
  - 完全状態のバックアップでは、Cisco UCS Central でダウンロードされたファームウェア イメージはバックアップされません。新しい Cisco UCS Central VM を展開するとき、また完全状態のバックアップから復元するときは、Cisco UCS Central でもう一度ファームウェア イメージをダウンロードしてください。完全状態の復元を行った後、一時停止モードから Cisco UCS ドメインを認識する前に、ファームウェアイメージをダウンロードする必要があります。
- 次のオプションは、1.5 ではサポートされていません。
  - samdb 設定インポートの消去。
  - Cisco UCS Central リリース 1.0、1.1、および 1.2 からのアップグレード。
  - Cisco UCS Central リリース 1.3 以前からのフルステート バックアップを使用した Cisco UCS Central リリース 1.5 の復元。
  - Cisco UCS Central リリース 1.3 以前からの設定のエクスポートを使用した Cisco UCS Central リリース 1.5 からの設定のインポート。

° Cisco UCS Central リリース 1.5 から Cisco UCS Central リリース 1.2 以前へのダウングレード。

スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central のアップグレード

現在動作しているの RHEL カーネルのバージョンおよびすべての Cisco UCS Central コンポーネントのアップグレード手順は、次の通りです。また、すべての Cisco UCS Central データを保持します。

はじめる前に

Cisco UCS Central リリース 1.5 の ISO イメージを取得しておく必要があります。Cisco.com からの Cisco UCS Central ソフトウェアの入手, （25 ページ）を参照してください。この手順を実行する前に、Cisco UCS Central データをバックアップすることをお勧めします。

手順

ステップ 1 必要に応じて VM を再起動し、CD-ROM から起動するブート オプションに変更します。

ステップ 2 Cisco UCS Central ISO イメージを仮想 CD/DVD ドライブにマウントします。

ステップ 3 ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Upgrade Existing Cisco UCS Central] を選択します。

ステップ 4 アップグレード完了後に、仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。

ステップ 5 Cisco UCS Central VM を再起動します。

クラスタ モードでの Cisco UCS Central のアップグレード

重要

- クラスタの両方のノードで ISO のアップグレードを完了する必要があります。任意の順序で両方のノードのアップグレードを実行できます。クラスタ設定は、両方のノードが同じリリース バージョンの Cisco UCS Central を実行している場合にのみ使用できます。
- クラスタのノードAおよびノードBの両方で次の手順1～5を確実に実行してください。

はじめる前に

このリリースの Cisco UCS Central ISO イメージを入手しておく必要があります。Cisco.com からの Cisco UCS Central ソフトウェアの入手, （25 ページ）を参照してください。この手順を実行する前に、Cisco UCS Central データをバックアップすることをお勧めします。必ず共有ストレージの接続性を確保してください。

手順

ステップ 1 ノード A または B の UCS Central VM をシャットダウンし、CD-ROM から起動するブート オプションに変更します。

ステップ 2 電源を入れて、仮想 CD/DVD ドライブで Cisco UCS Central ISO イメージをマウントします。

ステップ 3 ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Upgrade Existing Cisco UCS Central] を選択します。

ステップ 4 アップグレード完了後に、仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。

ステップ 5 Cisco UCS Central VM を再起動します。

ステップ 6 もう一方のノードで、ステップ 1 ～ 5 を繰り返します。

ステップ 7 両方のノードをアップグレードしたら、HA 選択が完了するまで待機し、いずれかのノードでクラスタ状態を確認します。

```
UCSC-A# show cluster state
Cluster Id: 0xYYYYYY
A: UP, PRIMARY
B: UP, SUBORDINATE
HA READY/HA NOT READY
```

ノードのどちらかがプライマリとして選択され、残りがセカンダリとなります。

Cisco UCS ドメインの登録状況と可用性によっては、HA ステータスがアップグレード前の状態と同じままになります。

スタンドアロン モードからクラスタ モードへ Cisco UCS Central を変更

はじめる前に

この手順を実行する前に、Cisco UCS Central データをバックアップすることをお勧めします。

手順

ステップ 1 VM を停止します。

ステップ 2 VM を起動し、VM が開始するまで待ちます。

ステップ 3 ローカル管理に接続するためのローカル管理コマンドを実行します。

a) central-lun **connect local-mgmt#** と入力し、Enter キーを押します。

b) **UCS(local-mgmt)# enable cluster[Peer Node IP][Cluster Virtual IP]** コマンドを入力し、Enter キーを押します。

```
This command will enable cluster mode on this step.  You cannot change it back to
stand-alone.
All system services and database will also be restarted.
Are you sure you want to continue? (yes/no)
```

ステップ 4 「enable cluster mode」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。

ステップ 5 NFS サーバ IP アドレスと NFS ディレクトリ絶対パスを入力します。

```
Enter NFS IP:
Enter NFS Directory:
```

ステップ 6 クラスタの状態をチェックします。ノードがプライマリに選択されたように表示されます。ノード B をクラスタに追加できます。ノード B への Cisco UCS Central のインストール，（40 ページ）を参照してください。

注意 VM は Cisco UCS Central のセカンダリ ノードをインストールする前に再起動され、プライマリ ノードのデータベースおよびサービスは使用できません。**cluster force primary** コマンドを実行して、プライマリ ノードの VM のデータベースとサービスをリカバリします。

第 7 章

Cisco UCS Manager の使用

この章は、次の項で構成されています。

- Cisco UCS Cisco UCS Central，63 ページ
- Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録，65 ページ
- Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除，65 ページ
- Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録，66 ページ
- Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除，67 ページ
- Cisco UCS Central の IP アドレスの変更，68 ページ
- Cisco UCS Manager の IP アドレスの変更，70 ページ
- Cisco UCS Central インスタンスの移行，70 ページ

Cisco UCS Cisco UCS Central

Cisco UCS Central は、1 つまたは複数のデータセンターでの複数の Cisco UCS ドメインの一元管理機能を実現します。Cisco UCS Central は、増大する Cisco UCS 環境にスケーラブルな管理ソリューションを提供するために Cisco UCS Manager を使用します。

Cisco UCS Central では、API などの Cisco UCS Manager のすべてのローカル管理機能を、低減または変更しません。これにより、Cisco UCS Central を使用する以前と同じ方法で Cisco UCS Manager の使用を継続できます。また、既存のすべてのサードパーティ統合は変更せずに引き続き動作することができます。

Cisco UCS ドメインの登録

Cisco UCS Central から Cisco UCS Manager を管理するには、Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメインを登録します。Cisco UCS ドメインは、ドメイン グループの一部またはグループ化されていないドメインとして登録できます。ドメイン グループを設定すると、そのドメイン グループに含まれる登録済みドメインのすべてが、共通のポリシーやその他の設定を共有できます。

完全修飾ドメイン名（FQDN）または IP アドレスを使用して、Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメインを登録します。

（注） Cisco UCS Central への初期登録プロセス中に、すべてのアクティブな Cisco UCS Manager GUI セッションが終了します。

Cisco UCS Central でドメインを登録する前に、次の手順を実行します

- Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central を確実に同期させるために、双方で NTP サーバおよび正しいタイム ゾーンを設定します。Cisco UCS ドメインおよび Cisco UCS Central の日時が同期していないと、登録に失敗する可能性があります。
- Cisco UCS Central のホスト名または IP アドレスを取得します。Cisco UCS Central と Cisco UCS Manager の両方に対して同じホスト名を使用することはできません。スタンドアロン モードの場合、各 VM の IP アドレスを使用します。クラスタ モードでセットアップする場合は仮想 IP アドレスを使用します。
- Cisco UCS Central を展開したときに設定した共有秘密を取得します。

（注）

- Cisco UCS ドメインを登録する際は、常に Cisco UCS Central の完全修飾ドメイン名（FQDN）を使用することを推奨します。ドメインが FQDN で登録されていれば、Cisco UCS Central の IP アドレスに変更があっても、その変更はドメインには透過的です。
- ドメイン名を使用して Cisco UCS ドメイン を登録する場合は、Cisco UCS Manager によって別の IP アドレスに正常に移行できます。

  IP アドレスを使用して Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメインを登録する場合は、Cisco UCS Manager によって使用される IP アドレスを変更することはできません。IP アドレスの変更が必要な場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。
- Cisco UCS Central を RHEL 7.2 KVM に展開していて、Cisco UCS ドメインを初めて登録する場合は、**set regenerate yes** コマンドを使用して、証明書を再生成する必要があります。
- 登録された Cisco UCS ドメインで Cisco UCS Central からのラウンドトリップが 300 ミリ秒以上遅延する場合、Cisco UCS ドメインのパフォーマンスに影響する可能性があります。
- Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインの登録を解除すると、グローバル サービス プロファイルは Cisco UCS Manager のローカル サービス プロファイルになります。

  Cisco UCS Central の IP アドレスの変更の詳細については、Cisco UCS Central の IP アドレスの変更, （68 ページ）を参照してください。

警告 Cisco UCS Central に登録する前に、Cisco UCS Manager をリリース 2.1(2) 以降にアップグレードする必要があります。それよりも前のバージョンの Cisco UCS Manager を登録しようとしても、登録は失敗します。

Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録

手順

ステップ 1 Cisco UCS Manager の [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。

ステップ 2 [Admin] タブで、[All] > [Communication Management] を展開します。

ステップ 3 [UCS Central] ノードをクリックします。

ステップ 4 [Actions] 領域で、[Register With UCS Central] をクリックします。

ステップ 5 [Register with UCS Central] ダイアログボックスで、次を実行します。

a) [Hostname/IP Address] フィールドに、ホスト名または IP アドレスを入力します。
IP アドレスではなく、ホスト名を使用することをお勧めします。ホスト名を使用するには、DNS サーバを設定する必要があります。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていない場合や、DNS 管理がローカルに設定されている場合、Cisco UCS Manager で DNS サーバを設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されている場合や、DNS 管理がグローバルに設定されている場合、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。

b) [Shared Secret] フィールドに、共有秘密またはパスワードを入力します。

ステップ 6 [Policy Resolution Control] 領域で、Cisco UCS Central からポリシーまたは設定を管理する場合は [Global] をクリックし、Cisco UCS Manager からポリシーまたは設定を管理する場合は [Local] をクリックします。

ステップ 7 [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除

注意 本稼働システムに登録された Cisco UCS ドメインの登録を解除する場合は、シスコ テクニカル サポートにお問い合わせください。

Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインの登録を解除する場合。

- Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインのサービス プロファイル、ポリシー、およびその他の設定を管理することはできなくなります。
- すべてのグローバルサービスプロファイルとポリシーはローカルになり、ローカルエンティティとして機能し続けます。ドメインを再登録しても、サービス プロファイルおよびポリシーはローカルのままです。

手順

ステップ 1 Cisco UCS Manager の [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。

ステップ 2 [Admin] タブで、[All] > [Communication Management] を展開します。

ステップ 3 [UCS Central] ノードをクリックします。

ステップ 4 [Actions] 領域で、[Unregister With UCS Central] をクリックします。

ステップ 5 Cisco UCS Manager GUI に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

ステップ 6 [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **scope system**	システム モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/system # **create control-ep policy** *ucs-central*	Cisco UCS ドメイン を Cisco UCS Central に登録するために必要なポリシーを作成します。 *ucs-central* は Cisco UCS Central が展開されている仮想マシンのホスト名または IP アドレス にすることができます。

	コマンドまたはアクション	目的
		（注） IP アドレスではなく、ホスト名を使用することをお勧めします。ホスト名を使用するには、DNS サーバを設定する必要があります。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていない場合や、DNS 管理がローカルに設定されている場合、Cisco UCS Manager で DNS サーバを設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されている場合や、DNS 管理がグローバルに設定されている場合、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。
ステップ 3	Shared Secret for Registration: *shared-secret*	Cisco UCS Central を導入したときに設定された共有秘密（またはパスワード） を入力します。
ステップ 4	UCS-A/system/control-ep # **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次に、Cisco UCS ドメイン を FQDN を使用して Cisco UCS Central システムに登録し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # create control-ep policy UCSCentral.MyCompany.com
Shared Secret for Registration: S3cretW0rd!
UCS-A /system/control-ep* # commit-buffer
UCS-A /system/control-ep #
```

Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除

注意 本稼働システムに登録された Cisco UCS ドメインの登録を解除する場合は、シスコ テクニカル サポートにお問い合わせください。

Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインの登録を解除する場合。

- Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインのサービス プロファイル、ポリシー、およびその他の設定を管理することはできなくなります。
- すべてのグローバル サービス プロファイルとポリシーはローカルになり、ローカル エンティティとして機能し続けます。ドメインを再登録しても、サービス プロファイルおよびポリシーはローカルのままです。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **scope system**	システム モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/system # **delete control-ep policy**	ポリシーを削除し、Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインを登録解除します。
ステップ 3	UCS-A/system # **commit-buffer**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次に、Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインの登録を解除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # delete control-ep policy
UCS-A /system* # commit-buffer
UCS-A /system #
```

Cisco UCS Central の IP アドレスの変更

Cisco UCS ドメインを登録する際は、常に Cisco UCS Central の完全修飾ドメイン名（FQDN）を使用することを推奨します。ドメインが FQDN で登録されていれば、Cisco UCS Central の IP アドレスに変更があっても、その変更はドメインには透過的です。Cisco UCS Central の IP アドレスの変更は、Cisco UCS Central に完全修飾ドメイン名（FQDN）がある場合、および Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central ドメイン名を使用して登録されている場合にのみサポートされます。

（注） Cisco UCS Central の IP アドレスの変更は、Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central の IP アドレスを使用して登録されている場合はサポートされません。

手順

ステップ 1 ホスト名に対応する DNS サーバから既存の Cisco UCS Central IP アドレスを削除し、新しい IP アドレスと Cisco UCS Central ホスト名を入力します。

ステップ 2 仮想インフラストラクチャ管理プラットフォーム（VMware vCenter など）で、新しいサブネットを指すように仮想ネットワーク インターフェイス（VIF）を変更します。

ステップ 3 Cisco UCS Central VM コンソールで、ネットワーク インターフェイスの IP アドレスを変更します。

ステップ 4 GUI からホスト名を使用して Cisco UCS Central を起動します。Cisco UCS Central GUI にアクセスできない場合は、Cisco UCS Central CLI から **pmon** コマンドを再起動します。

ステップ 5 Cisco UCS Manager GUI で Cisco UCS Central 登録ステータスを確認します。

ステップ 6 高可用性の設定では、ノードと仮想 IP の両方の IP アドレスは次の例に示すように、プライマリノードでのみ変更できます。

以下に、ネットワークインターフェイスのスタンドアロンセットアップの場合の例を示します。

```
Changing IP for a UCS Central system in Standalone mode:

UCSC # scope network-interface a
UCSC/network-interface # set net ip 10.10.10.2 gw 10.10.10.1 netmask 255.255.255.0
Warning: When committed, this change may disconnect the current CLI session
UCSC/network-interface* # commit-buffer
UCSC/(local-mgmt)# pmon restart
  Shutting down pmon:       [  OK  ]
  Starting pmon:            [  OK  ]
--------------------------------------------------------------------------------

Changing node IP for a UCS Central system in High-Availability mode:

UCSC # scope network-interface a
UCSC/network-interface # set net ip 10.10.10.2 gw 10.10.10.1 netmask 255.255.255.0
Warning: When committed, this change may disconnect the current CLI session
UCSC/network-interface* # commit-buffer
UCSC # scope network-interface b
UCSC/network-interface # set net ip 10.10.10.2 gw 10.10.10.1 netmask 255.255.255.0
Warning: When committed, this change may disconnect the current CLI session
UCSC/network-interface* # commit-buffer
UCSC/(local-mgmt)# pmon restart
  Shutting down pmon:       [  OK  ]
  Starting pmon:            [  OK  ]
------------------------------------------------------------------------------------
Changing virtual IP for a UCS Central system in High-Availability mode

UCSC# scope system
UCSC/system # set virtual-ip
    a.b.c.d System IP Address
    ipv6    System IPv6 Address

UCSC/system # set virtual-ip 10.106.227.206
UCSC/system*# commit buffer
```

Cisco UCS Manager の IP アドレスの変更

Cisco UCS ドメインが IP アドレスを使用して Cisco UCS Central に登録されている場合は、Cisco UCS Manager IP アドレスを変更することができます。次の手順で、Cisco UCS Manager IP アドレスを変更します。

はじめる前に

ファブリック インターコネクトが新しいサブネットに接続していることを確認します。

手順

ステップ 1 ホスト名に対応する DNS サーバから既存の Cisco UCS Manager IP アドレスを削除し、新しい IP アドレスおよび同じ Cisco UCS Manager ホスト名を入力します。

ステップ 2 プライマリ FI コンソールで、次のコマンドを実行します。

例：

```
UCS-A# scope fabric-interconnect a
UCS-A /fabric-interconnect # set out-of-band ip 10.193.190.61 netmask 255.255.255.0 gw
10.193.190.1
UCS-A /fabric-interconnect* # scope fabric-interconnect b
UCS-A /fabric-interconnect* # set out-of-band ip 10.193.190.62 netmask 255.255.255.0 gw
10.193.190.1
UCS-A /fabric-interconnect* # scope system
UCS-A /system* # set virtual-ip 10.193.190.60
UCS-A /system* # commit-buffer
```

ステップ 3 上記のコマンドを実行した後、ホスト名を使用して Cisco UCS Manager を起動し、登録ステータスが変更されていないことを確認します。

ステップ 4 Cisco UCS Central CLI の **service-reg** で、**show clients** コマンドが UCS ドメインの新しい IP アドレスを指していることを確認します。

ステップ 5 （オプション）IP アドレスが変更されているかどうかを確認するために、Cisco UCS Central から Cisco UCS Manager GUI を起動し、UI の新しい IP アドレスが更新されていることを確認します。Cisco UCS Central GUI からいずれかのグローバル サービス プロファイル ラベルを更新して追加の確認を行い、更新されたラベルが Cisco UCS Manager にプッシュされていることを確認できます。新しいグローバル サービス プロファイルまたはポリシーを作成し、それを Cisco UCS Manager にプッシュして、UI の新しい IP アドレスが更新されていることを確認することもできます。

Cisco UCS Central インスタンスの移行

データセンターの移行やディザスタ リカバリのユース ケースをサポートするために、Cisco UCS Central インスタンスを移行することができます。Cisco UCS Central インスタンスに正常を移行するには、次の要件を満たしている必要があります。

- Cisco UCS Central の完全修飾ドメイン名（FQDN）があること。Cisco UCS Central インスタンスを移行する場合、インスタンスの FQDN（ホスト名）は同じままに維持しなければなりません。
- 移行後の Cisco UCS Central インタンスからも、登録されているすべての Cisco UCS Manager インスタンスに登録時と同じ方法（ドメイン ホスト名または IP アドレス）で到達できなければなりません。

（注） Cisco UCS Central は移行時の Cisco UCS Central の IP アドレスの変更をサポートします。